



福山市民病院

FUKUYAMA CITY HOSPITAL

医療支援センター 地域医療連携課

診療案内 2026

～つなごう医療～



目次

目次	2
病院理念と方針・病院概要	3
事業管理者ご挨拶	4
院長ご挨拶	5

●病院概要

学会等施設認定状況	6
福山市民病院のあゆみ	7
フロアマップ	8
組織図	9

●医師紹介

医師紹介	10・11・12・13
------	-------------

●診療部

地域とともに 診療部のご案内	14
診療部基本方針	15
内科	16・17
精神科・精神腫瘍科	18
脳神経内科	18
循環器内科	19
小児・新生児科	20
小児専門外来	20
外科	21
呼吸器外科	22
整形外科	22
形成外科	23
脳神経外科	24
心臓血管外科	25
小児外科	26
乳腺甲状腺外科	27
泌尿器科	28
産婦人科	29
耳鼻咽喉・頭頸部外科	29
皮膚科	30
眼科	30
麻酔科・がんペインクリニック	31
リハビリテーション科	32
放射線診断・IVR科	33

緩和ケア科	34
放射線治療科	35
腫瘍内科	36
病理診断科	37
歯科口腔外科	37
臨床検査科	38
内視鏡診断・治療センター	38

●がん診療統括部

がん診療統括部	39
外来化学療法センター	40
緩和ケアセンター	41

●救命救急センター

救急科	42
-----	----

●中央手術部

●看護部

●医療技術部

薬剤科	45
放射線科	46
PET-CT予約手順について	47
リハビリテーション科	48
栄養管理科	49
臨床検査科	50
臨床工学科	51

●医療支援センター

医療支援センター・地域医療連携課	52
がん相談支援センター	53
肝疾患相談室	53
医療相談窓口	53
脳卒中相談窓口	53
予約診療について	54
福山市民病院 紹介患者事前申込用紙(FAX用)	55

病院理念と方針

福山市民病院 理念

質の高い安全な医療を通じて「安心と生きる力とやすらぎ」を地域に提供するとともに
 こころ豊かな医療人を育成する

福山市民病院 基本方針

(患者本位)

1. 患者の権利を尊重し、十分な説明と納得・同意のうえ、根拠に基づいた安全で質の高い医療を提供します

(人材育成)

2. 地域の基幹病院として、新しい医療技術や知識を常に習得するとともに、専門職としての使命・責務を自覚した、こころ豊かな医療人の育成に努めます

(地域連携)

3. 地域医療機関と連携し、高度で先進的な医療を行い、急性期医療の充実に貢献します

(療養環境整備)

4. 安全で快適な、温もりのある療養環境の整備に努めます

(健全経営)

5. チーム医療の推進を図り、医療人の健康の確保とハラスメントのない職場環境の整備に努めるとともに、効率的な経営管理を行い、自立した健全経営を目指します

病院概要 (2026年4月1日現在)

- 病院の名称 福山市民病院 Fukuyama City Hospital
- 開設者 福山市長 枝広 直幹
- 病院事業管理者 高倉 範尚
- 院長 植木 亨
- 所在地 〒721-8511 広島県福山市蔵王町五丁目23番1号
TEL: 084-941-5151
- 診療科目 29科目
内科、精神科・精神腫瘍科、脳神経内科、循環器内科、小児・新生児科、外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺甲状腺外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、臨床検査科、病理診断科、緩和ケア科、腫瘍内科、救急科、がんペインクリニック、歯科口腔外科
- 病床数 506床(一般病床:500床 感染症病床:6床)
- 看護体制 7:1
- 施設規模 敷地面積: 35,178.02㎡
建築面積: (本館) 4,945.93㎡ (東館) 2,274.87㎡ (西館) 4,265.68㎡
延床面積: (本館) 20,041.54㎡ (東館) 12,990.43㎡ (西館) 15,864.10㎡
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
- 相談体制 医療相談室、がん相談支援センター、肝疾患相談室、脳卒中相談窓口
- 主な機器等 高精度放射線治療装置(1台)、320列MSCT(2台)、IVR-CT(1台)、
血管連続撮影装置(3台)、MRI(2台)、RI(2台)、PET-CT(1台)、乳房撮影装置(1台)、
X線透視撮影装置(4台)、手術支援ロボット「ダヴィンチ」(2台)、人工透析装置(30床)、
手術室(10室)、無菌室(5室)、外来化学療法センター(26床)、集中治療室(12床)、
高規格救急自動車(1台)、災害時緊急車両(1台)、ドクターカー(1台)
- 職員数 1,081人
診療部: 202人(研修医24人、専攻医29人、公認心理師2人、視能訓練士3人、歯科衛生士4人含)
医療技術部: 168人、看護部: 630人、経営企画部: 62人、医療支援センター: 19人
- 1日平均外来数 885.2人(2025年度)
- 1日平均入院数 407.6人(//)
- 紹介率 79.0% (//)
- 逆紹介率 167.9% (//)
- 病床稼働率 81.5% (// ・感染症病床6床を除く500床で算出)
- 平均在院日数 9.3日 (//)

事業管理者ご挨拶



福山市病院事業管理者

高倉 範尚

当院は救命救急センターを併設し、「地域医療支援病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「がんゲノム医療連携病院」、「肝疾患診療連携拠点病院」、「小児救急医療拠点病院」などの指定を受けた、「救急医療」、「がん医療」、「高度専門医療」を診療の柱とする標榜診療科29科、病床数506床の「DPC特定病院群」に認定された急性期病院です。

診療の柱である「救急医療」ですが、救急科専従医を中心に、内科系・外科系・循環器系の医師および小児・新生児科医、麻酔科医などが当院の救急医療を支えており、2025年度の救急患者数は8,177人、そのうち救急車による搬送人数は4,221人、3次救急患者は764人でした。もう一方の柱である「がん医療」では、2025年の院内がん登録件数は2,163件（5/20時点）、がん手術件数は2,393件、新規がん放射線治療患者数は482人、延べ放射線治療件数は8,990件、外来がん化学療法件数は8,690件でした。また、昨年度、「がんゲノム外来」で実施した遺伝子パネル検査件数は59件で今年度も引き続き岡山大学と連携し、ゲノム医療を進めてまいります。「高度専門医療」では、外科系分野においては泌尿器科、外科、呼吸器外科が悪性腫瘍に対して積極的にロボット支援下手術などの低侵襲手術に取り組んでおり、2025年は319件

のロボット支援下手術を実施しました。また、周産期領域では2023年から無痛分娩に取り組むとともに、NIPT（非侵襲性出生前遺伝学的検査）を162人の妊婦に実施しました。

2026年度の診療体制は、新しく標榜する診療科はありませんが、内科を中心に医師が増員となり診療体制や研修医に対する教育研修体制がより充実しました。産婦人科には「婦人科腫瘍学会専門医」が着任し、今後「婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設」の認定を目指します。また、当院は2024年から「プレNICU」を稼働させ後期早産児の受入れを行う傍ら、院外研修を行うなど周産期母子医療センターの開設に向け準備をしてきました。本年8月のセンター開設後もさらに実績を重ね、まず「地域周産期母子医療センター」の指定を目指します。

看護部では特定行為研修を修了した看護師が5名在籍し、集中治療、外科治療、糖尿病診療の現場で実践的な患者管理を行っています。また、認定看護師は専門的な看護の実践のみならず院内の教育研修も担当し、看護の質の向上に取り組んでいます。その他、当院では助産師や認定看護師による母乳外来、ストーマ外来、がん看護外来、リンパ浮腫外来、糖尿病看護外来や、がん薬物療法を安全に行うために「認定薬剤師」による薬剤師外来を開設しています。さらに、医療技術部各科は組織横断的に多くのチーム医療に関わり、医療安全や医療の質の向上に取り組んでいます。

最後に、当院はこれからも、地域の皆さまから信頼される病院となれるよう研鑽を続けてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

院長ご挨拶



病院長

植木 亨

この春より福山市民病院の病院長を拝命いたしました内科の植木亨でございます。福山市は人口約45万人を擁し、非県庁所在地としては全国有数の規模を持ちながら大学病院を有さず、当院が高度急性期医療を担う中核病院としての役割を果たしております。地域の皆さまの命と健康を守る責任の重さに、身の引き締まる思いでございます。また、日頃より地域医療にご尽力されている皆さま方におかれましては、当院との円滑な連携に格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

当院はこれまで「がん診療」「救急医療」「高度専門診療」を三つの柱として、質の高い医療を提供してまいりました。現在、新本館建て替え工事を進めており、2026年8月にはⅠ期工事が完了し、周産期センターと屋上ヘリポートを備えた新たな救命センターを有する新本館がオープンいたします。これにより、安心して子どもを産み育てられる医療環境の整備と、より迅速で的確な救急医療体制の充実を図り、地域の皆さまの期待に応えてまいります所存です。

私は副院長時代より継続して医療支援センター長（地域医療連携部門）を兼務し、紹介・逆紹介の推進や地域連携の強化に取り組んでまいりました。地域連携こそが病院の質を左右する中核機能のひとつであると確信しております。さらに、医師会理事を務め

た経験を通じて、地域の病院・診療所の先生方と直接交流し、地域医療の現場と医師会活動の意義を肌で感じることができました。こうした経験を礎に、「顔の見える地域連携」をより一層深化させ、皆さまと確固たる信頼関係を築きながら、地域医療を共に支えていきたいと思っています。

国が示す新たな地域医療構想では、病床機能が高度急性期・急性期・包括期（従来の回復期を含む）・慢性期に再編され、機能分化と連携強化がこれまで以上に求められます。2040年に向けて高齢者救急の増加と生産年齢人口の減少が同時に進む中、限られた医療資源で質の高い医療を維持するためには、地域全体で患者の流れを適切につなぐことが不可欠です。当院では、入退院支援を強化したPFM(Patient Flow Management : BATON) を推進しております。その象徴として、地域と院内をつなぐ橋渡し役「BATONローラ」を掲げ、患者さまを地域全体で切れ目なくつないでいきます。医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・MSW等が連携し、前方・後方連携を円滑に進めることで、患者さまにとって最適な医療の流れを実現してまいります。

当院は今後も、「顔の見える地域連携」を基本に、紹介・逆紹介のさらなる推進、診療情報提供の充実、そして多職種間での迅速な情報共有に、病院を挙げて積極的に取り組んでまいります。高度急性期から包括期・慢性期・在宅へと、患者さまを地域全体でシームレスに支える体制こそが持続可能な医療の礎であり、「オール福山」の理念のもと、当院が地域連携の中核として積極的に橋渡し役を担ってまいります。地域医療の質は連携の質によって決まります。地域医療を共に支えていただいております皆さま方におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



学会等施設認定状況

日本内科学会専門研修プログラム基幹施設	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本肝臓学会認定施設	日本リハビリテーション医学会研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本専門医機構呼吸器内科領域専門研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本感染症学会連携研修施設
日本消化器病学会認定施設	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修準認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本呼吸器学会認定施設	日本口腔外科学会認定研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	乳房再建エキスパンダー実施施設
日本消化器外科学会学会連携施設	乳房再建インプラント実施施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設A	下肢静脈瘤に対する血管内治療施設
日本臨床細胞学会認定施設	JCOG胃がんグループ参加施設
日本臨床細胞学会教育研修施設	JCOG大腸がんグループ参加施設
日本乳癌学会認定施設	日本臨床細胞学会コントロールサーベイ参加施設
日本内分泌外科学会専門医制度認定施設	臨床検査値精度保証施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本外科感染症学会外科周術期感染教育施設
胸部ステントグラフト実施施設	日本産科婦人科学会専門研修プログラム連携施設
腹部ステントグラフト実施施設	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認証施設(I&A制度)
日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設	日本食道学会全国登録認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	治療用照射装置出力線量の第三者機関による測定実施施設
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門研修プログラム連携施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設	日本脈管学会認定研修関連施設
日本透析医学会教育関連施設	日本膵臓学会認定指導施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	マンモグラフィ検診施設・画像認定施設
胸部外科教育施設協議会修練施設	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設	日本超音波検査学会画像コントロールサーベイ参加施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本口腔内科学会研修施設
日本集中治療医学会専門医研修施設(救命救急センター・集中治療室)	日本顎顔面インプラント学会研修施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本心臓血管麻酔学会専門医認定基幹施設
日本形成外科学会専門研修プログラム連携施設	母体保護法指定医師研修機関
日本精神神経学会専門研修プログラム連携施設	IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本臨床栄養代謝学会NST専門療法士認定教育施設	日本胆道学会指導施設
日本臨床栄養代謝学会認定NST稼働施設	日本外傷学会外傷専門医研修施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設
日本病理学会研修認定施設B	日本脳卒中学会研修教育施設
日本放射線腫瘍学会認定協力施設	日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	がん薬物療法認定薬剤師研修事業暫定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	NIPT(出生前検査)を実施する医療機関(基幹施設)
日本緩和医療学会認定研修施設	日本周産期・新生児医学会周産期専門医暫定認定施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設	日本血液学会認定専門研修認定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	日本リウマチ学会教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設

国・県等認定・施設認定

地域医療支援病院	生活保護法による医療機関	日本医療機能評価機構認定施設
地域がん診療連携拠点病院	結核指定医療機関	3rdG : Ver.2.0
救命救急センター	未熟児養育医療指定医療機関	地域心臓いきいきセンター
肝疾患診療連携拠点病院	更生(育成)指定医療機関	がんゲノム医療連携病院
災害拠点病院	難病及び小児慢性特定疾病指定	小児救急医療拠点病院
臨床研修病院(基幹型・協力型)	医療機関	労災保険二次健診等給付病院
第二種感染症指定医療機関	被爆者一般疫病医療機関	へき地医療支援病院
緩和ケア病棟承認施設	被爆者指定医療機関	広島県地域リハビリテーションサポートセンター
DPC特定病院群	広島DMAT指定病院	広島県難病医療協力病院(血液分野・消化器分野・神経・筋分野)
心臓リハビリテーション施設	救急救命士臨床実習施設	紹介受診重点医療機関
救急告示病院	肝炎インターフェロン治療指定	
	医療機関	

福山市民病院のあゆみ

- 1962年 9月 福山市国民健康保険大門病院として開院 (病床数25床)
- 1967年 4月 名称を福山市大門病院に変更(公営企業法適用)
- 1977年 8月 現在地に福山市民病院開院(病床数250床)



- 1980年 4月 心臓血管外科増設
- 1982年 5月 救急病院の告示(4床)
- 1983年 12月 福山地区病院群輪番制二次救急医療実施
- 1985年 1月 病床数300床となる
- 1989年 4月 精神科、神経内科、循環器科増設
- 1994年 9月 麻酔科増設
- 1997年 2月 災害拠点病院の指定を受ける
- 1999年 2月 「福山市民病院事業基本構想」策定
- 2001年 7月 救命救急センターの設置を表明
- 2002年 1月 県知事から救命救急センターを含め98床の増床許可を受ける[一般病床392床・感染症病床6床]
- 2002年 4月 皮膚科増設、増改築工事着工
- 2003年 1月 地域医療連携室を開設
- 2003年 4月 臨床研修病院の指定を受ける
- 2003年 7月 名称を福山市民病院に変更
- 2003年 12月 新館(東館)供用開始 192床(うち感染症6床)
- 2004年 3月 オーダリングシステム一次稼動、放射線治療装置導入
- 2004年 4月 第二種感染症指定医療機関の指定を受ける
- 2005年 2月 増改築工事完了



- 2005年 3月 オーダリング二次及び電子カルテシステム稼動
- 2005年 4月 新病院(398床)供用開始
救命救急センター開設
- 2006年 7月 病院機能評価(Ver.5.0)の認定を受ける
- 2006年 8月 地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける
- 2008年 4月 DPC対象病院となる
- 2009年 8月 地域医療支援病院の承認を得る
- 2009年 10月 肝疾患診療連携拠点病院に選定される
- 2010年 8月 県知事から106床の増床許可を受ける
- 2011年 5月 病院機能評価(Ver.6.0)の認定を受ける
- 2011年 7月 増築工事着工
- 2012年 1月 院外処方開始
- 2013年 3月 福山市民病院附属加茂診療所の閉鎖
- 2013年 5月 西館供用開始 128床
[一般病床500床・感染症病床6床]
PET-CT導入
歯科口腔外科、ペインクリニック内科増設

- 2013年 12月 福山市民病院増築事業竣工式
- 2014年 3月 東立体駐車場全面完成



- 2014年 4月 地方公営企業法の全部適用
- 2014年 7月 地域心臓いきいきセンターの指定
- 2014年 12月 手術支援ロボット(ダビンチ)導入
- 2015年 3月 高精度放射線治療装置「True Beam STx」導入
- 2016年 4月 病院機能評価(3rdG: Ver.1.1)の認定を受ける
DPCⅡ群病院の指定を受ける
医療支援センター設置
- 2016年 12月 福山市民病院改革プランの策定
- 2017年 3月 福山市民病院附属神辺診療所の閉鎖
- 2017年 4月 小児専門外来の設置
- 2018年 3月 BCP(事業継続計画)策定
- 2018年 4月 引き続きDPC特定病院群(従来のⅡ群)の指定を受ける
- 2018年 6月 へき地医療支援病院の指定を受ける
- 2018年 12月 ドクターカー運行開始
- 2019年 4月 がんゲノム医療連携病院に選定
- 2019年 8月 緩和ケアセンター開設
- 2020年 4月 地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定を受ける
引き続きDPC特定病院群の指定を受ける
小児外科増設
- 2021年 4月 小児救急医療拠点病院の指定を受ける
- 2022年 1月 日本医療機能評価(3rdG: Ver.2.0)認定更新受審
- 2022年 12月 北東立体駐車場完成
- 2023年 3月 増改築先行工事着工
- 2023年 4月 広島県難病医療協力病院(消化器分野・血液分野)の指定を受ける
引き続き地域がん診療連携拠点病院(高度型は制度上廃止)の指定を受ける
- 2023年 8月 手術支援ロボット(ダビンチXi)2台導入



- 2023年 11月 北立体駐車場完成
- 2024年 3月 福山市民病院経営強化プランの策定
福山市民病院附属田原診療所の閉鎖
増改築工事着工
- 2024年 5月 (感染症法)第一種及び第二種指定指定医療機関の指定を受ける
- 2024年 9月 福山市民病院経営強化プランの改定
- 2025年 4月 広島県難病医療協力病院(神経・筋分野)の指定を受ける
- 2026年 3月 福山市民病院経営強化プランの改定

フロアマップ

※2026年8月新本館
1期開設後移転予定

病床数 506床(一般病床500床、感染症病床6床)

一般病床のうち

- 救命救急センター ICU・CCU…8床 HCU…16床 計24床
- 集中治療室…12床
- 緩和ケア病床…16床

本館

Main Bldg.

7F

緩和ケア病棟

6F

内科・外科・呼吸器外科・眼科 病棟

5F

形成外科・乳腺甲状腺外科
耳鼻咽喉・頭頸部外科
歯科口腔外科 病棟

4F

内科・脳神経外科・泌尿器科 病棟

3F

整形外科(救急科) 病棟

51 リハビリテーション
Rehabilitation

2F

手術室
Operating room

1F

集中治療室
Intensive Care Unit

B1F

西館エレベーター
Elevator to Endoscopy

西館

West Bldg.

6F

外科・呼吸器外科 病棟

5F

内科 病棟

4F

小児科 病棟

3F

管理部門

2F

41 内視鏡診断・治療センター
Endoscopic Center

1F

11 歯科口腔外科
Dentistry and Oral Surgery

12 内科 脳神経外科
Internal Medicine Neurosurgery

13 外科 呼吸器外科
Surgery Thoracic Surgery

14 産婦人科
Obstetrics and Gynecology

15 中央処置室
Central Treatment Room

16 中央採血室
Central Blood Collection

17 外来化学療法センター
Chemotherapy Center

B1F

61 RI・PET-CT
Elevator to Endoscopy

62 放射線治療室
Radiation Therapy

東館

East Bldg.

6F

内科・循環器内科・
心臓血管外科 病棟(感染症病床)

5F

内科 病棟

4F

※ 乳腺甲状腺外科・産婦人科 病棟

3F

循環器内科・心臓血管外科 病棟

2F

救命救急センター
Emergency Medical Center

※ 心臓カテーテル検査室
Cardiac Catheterization Laboratory

1F

救命救急センター
Emergency Medical Center

99 救急・夜間・休日受付
After-hour Service Desk

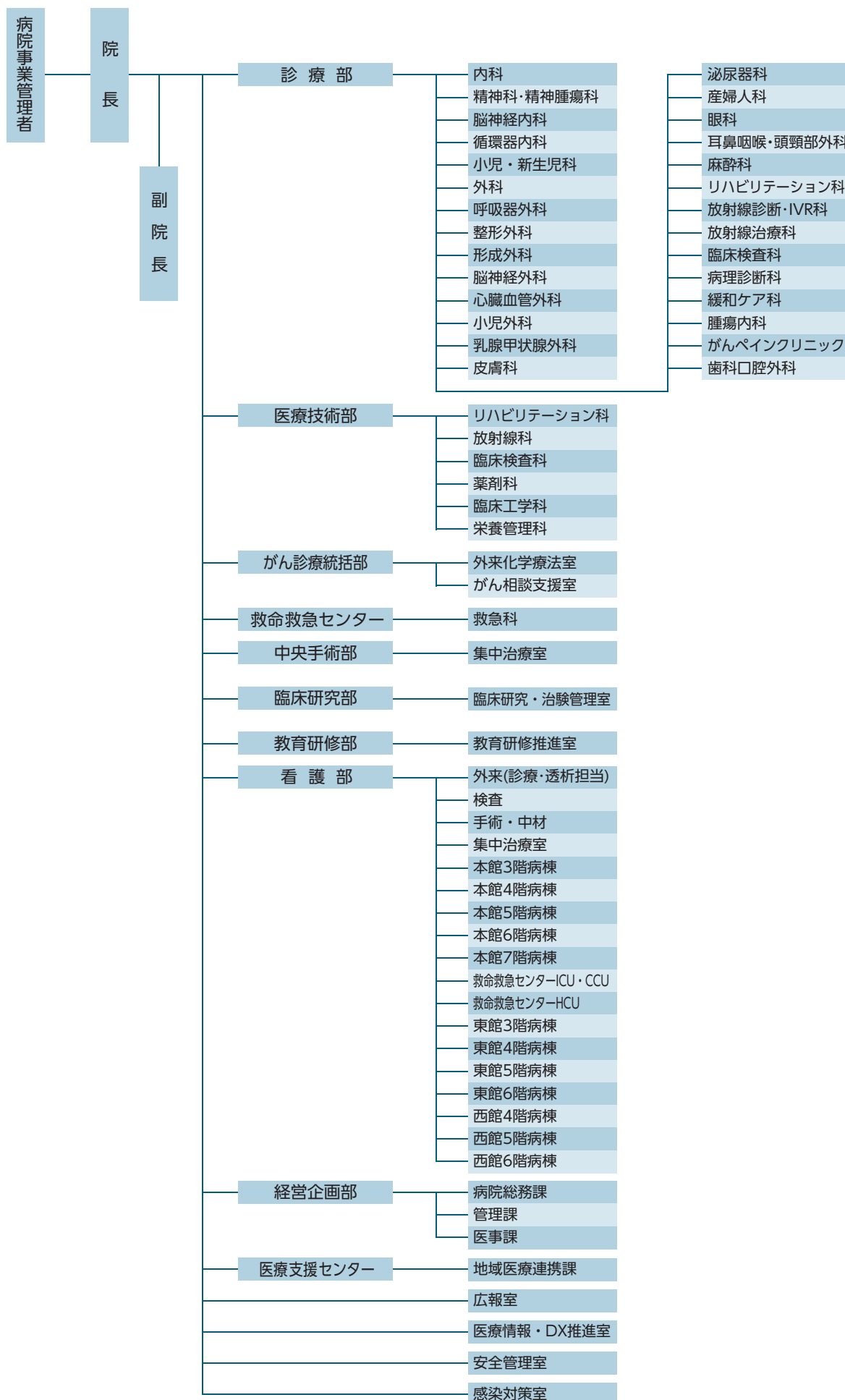
20 眼科
ophthalmology

B1F

東館エレベーター
East Bldg. Elevator

2026年4月1日現在

組織図 (2026年4月1日現在)



医師紹介(専門領域及び学会認定医・専門医等一覧表)

Doctor Introduction

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
内科		
植木 亨	胆膵 内視鏡 消化器	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医・中国支部評議員・学会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・中国支部評議員・学術評議員 胆道学会指導医 岡山大学医学部医学科 臨床教授
高田 一郎	呼吸器 臨床腫瘍学	日本内科学会総合内科専門医・中国支部評議員 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本肺癌学会中国・四国支部評議員 岡山大学医学部医学科 臨床教授
敷下 和久	消化器 肝臓	日本内科学会認定内科医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医 日本医師会認定産業医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 岡山大学医学部医学科臨床准教授
小川 恒由	胆膵	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会指導医・中国支部評議員 日本胆道学会指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
寺尾 正子	臨床腫瘍学 消化器内科 がんの化学療法	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
十倉 健彦	腎臓一般 血液透析	日本内科学会認定内科医 日本透析医学会専門医 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医
名和 徹	内視鏡 消化器	日本消化器内視鏡学会専門医
三谷 玲雄	呼吸器	日本内科学会認定内科医・指導医 日本内科学会認定教育施設指導医
野村 奈穂	血液疾患	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本血液学会血液専門医
安中 哲也	肝臓	日本内科学会総合内科専門医 日本肝臓学会指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
小林 沙代	内視鏡 消化器	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医・中国支部評議員・学会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・中国支部評議員・学術評議員 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 岡山大学医学部医学科臨床准教授
谷口 暁彦	呼吸器	日本アレルギー学会認定 アレルギー専門医・指導医 日本呼吸器学会認定 呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会認定 気管支鏡専門医・指導医 日本内科学会認定 総合内科専門医 日本医師会認定 産業医 がん治療認定医 ICD 制度協議会認定 インフェクションコントロールクター 日本内科学会中国支部評議員 日本呼吸器学会 中国・四国支部代議員 日本アレルギー学会代議員
太田 茂	内科一般	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会認定 消化器病専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 中国ブロック代議員 日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医
大西 章史	腎臓一般 血液透析	日本内科学会認定内科医・中国支部評議員 日本透析医学会専門医 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医
杉浦 弘幸	血液疾患	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本血液学会血液専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本造血・免疫細胞療法学会認定医 公益財団法人日本骨髓バンク 調整医師 岡山大学医学部医学科 臨床講師
皿谷 洋祐	消化器 胆膵	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本胆道学会認定指導医 日本膵臓学会認定指導医
高橋 寛子	糖尿病	日本糖尿病学会専門医 日本内科学会総合内科専門医
根岸 慎	消化器	

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
赤木 貴彦	リウマチ	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本リウマチ学会登録ソノグラファー 日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医 日本救急医学会認定ICLS・BLS コースインストラクター JMECC (日本内科学会認定内科救急ICLS 講習会) インストラクター 日本感染症学会認定インフェクションコントロールドクター (ICD)
下西 惇	呼吸器内科	
大山 矩史	血液腫瘍内科	血液内科専門医 総合内科専門医
武口 哲也	呼吸器内科	日本専門医機構認定内科専門医 日本医師会認定産業医 緩和ケア研修会修了
石原 朗雄	肝臓	
島田 佳祐	消化器	
橋口 瑠莉	腎臓一般	日本内科学会総合内科専門医 緩和ケア研修会修了
岡本 梨栄	消化器	
宮本 奈実	肝臓	
水野 悠己	血液腫瘍内科	緩和ケア研修会修了
植松 凜也	肝臓	緩和ケア研修会修了
岡 智彦	内科一般	
吉成 皐	内科一般	緩和ケア研修会修了
猪木 祐利	内科一般	
松崎 健輔	呼吸器内科	緩和ケア研修会修了
岡本 雅史	内科一般	
小橋英里香	内科一般	緩和ケア研修会修了
高嶋遼太郎	内科一般	
名木田 翔	消化器	緩和ケア研修会修了
難波 和希	内科一般	緩和ケア研修会修了

精神科・精神腫瘍科		
平 俊浩	リエゾン精神医学 サイコオンコロジー (精神腫瘍学)	精神保健福祉法指定医 日本精神神経学会専門医・指導医 日本総合病院精神医学会 理事・評議員 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医・指導医 日本サイコオンコロジー学会登録精神腫瘍医 精神腫瘍学の基礎教育に関する指導者 臨床研修指導医
小田 幸治	リエゾン精神医学 サイコオンコロジー (精神腫瘍学)	精神保健福祉法指定医 日本精神神経学会専門医・指導医 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医・指導医 日本サイコオンコロジー学会登録精神腫瘍医 精神腫瘍学の基礎教育に関する指導者 麻酔科標榜医

脳神経内科		
深井 雄太	神経内科一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本神経学会神経内科専門医
本間 拓也	神経内科一般	

循環器内科		
吉川 昌樹	虚血性心疾患 末梢動脈疾患 循環器一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・中国支部評議員 日本循環器学会専門医・中国地区評議員 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医・代議員 岡山大学医学部医学科臨床教授
森本 芳正	不整脈 循環器一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療研修履修 日本不整脈心電学会不整脈専門医 岡山大学医学部医学科臨床教授
荒井 靖典	循環器一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士 日本脈管学会専門医
内藤洋一郎	循環器一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医
岡 明宏	循環器一般	日本内科学会認定内科医 日本心臓リハビリテーション学会指導士 日本循環器学会認定循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医 植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療研修履修

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
武智龍之介	循環器一般	日本内科学会内科専門医 日本周術期経食道心エコー認定医
岡田 倫英	循環器一般	
清水 沙紀	循環器一般	

小児・新生児科		
飛梅 斎	小児内分泌 糖尿病	日本小児科学会専門医 岡山大学医学部医学科臨床准教授
占部 智子	小児一般	小児慢性特定疾病指定医
河津由紀子	小児循環器	日本小児科学会専門医・指導医 日本小児循環器学会専門医 日本胎児心臓病学会胎児心エコー認定医
日置 里織	小児循環器	日本小児科学会専門医
村岡 倫子	小児血液・腫瘍	日本小児科学会専門医・指導医 日本血液学会専門医
小寺 亜矢	小児循環器	日本小児科学会専門医・指導医 「子どもの心」相談医
岡村 朋香	新生児・遺伝	日本小児科学会小児科専門医 日本小児科学会認定小児科指導医 日本周産期・新生児医学会新生児専門医
渡邊 宏和	新生児	日本小児科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会専門医・指導医(新生児) 日本新生児育成医学会暫定フォローアップ認定医 出生前コンサルト小児科医 臨床研修指導医 医学博士 新生児蘇生法インストラクター 岡山大学医学部医学科臨床准教授
森田 詩織	小児一般、心身症	日本小児科学会専門医 臨床研修指導医(養成)講習会 緩和ケア研修会修了
木村 崇	小児一般	ICLSコース 新生児蘇生法専門コース修了 小児二次救命処置法修了 緩和ケア研修会修了
中村 祐太	小児一般	
安井 雅人	小児腎臓病	日本腎臓学会腎臓専門医 日本小児科学会専門医・指導医 日本小児科学会会議員 岡山大学医学部医学科臨床教授
松隈 知恵	小児一般	日本小児科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会専門医(新生児) 新生児蘇生法インストラクター 医学博士

外科		
高倉 範尚	消化器外科 肝胆膵外科	日本外科学会認定登録医 日本消化器外科学会指導医・消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本肝胆膵外科学会名誉指導医・評議員 日本臨床外科学会評議員
日置 勝義	消化器外科 肝胆膵外科	日本内視鏡外科学会技術認定医 日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・評議員 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本感染症学会認定インフェクションコントロールドクター(ICD) 日本外科感染症学会評議員 岡山大学医学部医学科臨床教授 外科周術期感染管理認定医・教育医 日本胆道学会認定指導医 日本脾臓学会認定指導医 da Vinci Certificate取得(Console Surgeon, First Assistant)
信岡 大輔	消化器外科 肝胆膵外科	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能専門医・評議員 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 岡山大学医学部 臨床准教授 da Vinci Certificate 取得 (Console Surgeon) 日本脾臓学会肝臓専門医
黒瀬 洋平	消化器外科 下部消化管	日本外科学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医
石川 亘	消化器外科 下部消化管	日本外科学会外科専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸) 日本臨床外科学会評議員 日本ヘルニア学会鼠径部ヘルニア習得医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 da Vinci Certificate取得(Console Surgeon, First Assistant) 岡山大学医学部医学科臨床講師
香川 哲也	消化器外科 上部消化管	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医(胃) 日本内視鏡外科学会評議員 日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot 国内A級 da Vinci Certificate取得(Console Surgeon,First Assistant) 日本食道学会食道科認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本胃癌学会会議員
三浦奈緒子	消化器外科 下部消化管	日本外科学会専門医 マンモグラフィ読影医 日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸) da Vinci Certificate取得(Console Surgeon, First Assistant)

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
三島 顕人	消化器外科 肝胆膵外科	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医・消化器がん治療認定医 日本肝臓学会専門医 da Vinci Certificate取得(Console Surgeon, First Assistant) 日本がん治療認定医機構 がん治療専門医
西村星多郎	消化器外科	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
河合 健吾	外科一般	緩和ケア研修会修了
土井廉太郎	外科一般	
原 和輝	外科一般	
高田 将汰	外科一般	
野々垣賢人	呼吸器外科	
村上 拓	外科一般	

呼吸器外科		
室 雅彦	外科一般 胸部外科 呼吸器外科	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本胸部外科学会認定医 日本呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科専門医 日本臨床外科学会評議員 日本感染症学会認定インフェクションコントロールドクター(ICD) 診療情報管理士 日本がん治療認定医機構暫定教育医・がん治療認定医
山田 英司	呼吸器外科	日本外科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科専門医 胸腔鏡安全技術認定医 da Vinci Certificate取得(Console Surgeon)
林 直宏	呼吸器外科	日本外科学会専門医
下見 怜央	呼吸器外科	

整形外科		
山名 圭哉	脊椎脊髄外科	日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医・脊椎脊髄外科指導医 日本リウマチ学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医・リハビリテーション科専門医
寺田 忠司	整形外科一般 外傷	日本整形外科学会専門医 日本整形外傷学会評議員 AO Trauma Japan教育委員 JABO(Japanese Association for Biological Osteosynthesis)事務局長 Reberse Shoulder Arthroplasty Certificate取得 難病指定医 身体障害者福祉法規定の指定医師 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
岡田 幸正	膝・関節	日本整形外科学会専門医
横尾 賢	整形外科一般 外傷	日本整形外科学会専門医 緩和ケア研修会修了
村岡 聡介	整形外科一般	日本整形外科学会専門医 緩和ケア研修会修了
青山美奈絵	整形外科一般	日本整形外科学会専門医 緩和ケア研修会修了
近藤 洵也	整形外科一般 外傷	日本整形外科学会専門医 緩和ケア研修会修了
道味 久弥	整形外科一般	日本救急医学会救急科専門医 日本集中治療医学会集中治療専門医 日本DMAT隊員 統括DMAT隊員 緩和ケア研修会修了
中川 知軌	整形外科一般	
森谷 建彦	整形外科一般	
高田 涼平	整形外科一般	

形成外科		
山本 康弘	顔面外傷 慢性創傷 乳房再建 マイクロサージャリー	日本形成外科学会形成外科専門医
有安 拓巳	形成外科一般	
林 将太郎	形成外科一般	
高橋 咲季	形成外科一般	

脳神経外科		
大同 茂	脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 難病指定医・身体障害者福祉法規定の指定医師
金 一徹	脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医 難病指定医・身体障害者福祉法規定の指定医師
木村 颯	脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
心臓血管外科		
末澤 孝徳	心臓血管外科	日本外科学会専門医 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医・修練指導医 腹部ステントグラフト指導医 胸部ステントグラフト指導医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 カテーテルの大動脈弁置換術実施医 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医
林田 智博	心臓血管外科	医学博士 日本外科学会外科専門医 三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導医 日本胸部外科学会専門医 腹部ステントグラフト指導医 胸部ステントグラフト指導医 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による指導医 経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVR)実施医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医
吉田 賢司	成人心臓 血管疾患全般	日本外科学会専門医 日本心臓血管外科学会専門医 腹部大動脈ステントグラフト指導医 胸部大動脈ステントグラフト実施医 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
藤本 遼	心臓血管外科	腹部ステントグラフト実施医

小児外科		
尾山 貴徳	小児外科	日本外科学会専門医・指導医 日本小児外科学会小児外科専門医・指導医 日本小児外科学会評議員 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本移植学会移植認定医 日本周産期・新生児学会認定外科医 日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了 緩和ケア研修会修了 医学博士

乳腺甲状腺外科		
池田 雅彦	乳癌薬物療法 甲状腺癌治療 副甲状腺(上皮小体)疾患外科的治療 がん緩和ケア	日本乳癌学会認定医・乳腺専門医・指導医 日本内分泌外科学会認定内分泌・甲状腺外科専門医・指導医 日本外科学会認定医・専門医 臨床研修指導医 医療安全管理者 臨床研修プログラム責任者
久保慎一郎	外科一般 乳癌治療一般 遺伝性乳癌 がん緩和ケア 乳腺外科 消化器外科 がんゲノム医療	日本外科学会認定医・専門医 日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医 日本乳癌学会認定医・乳腺専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 マンモグラフィ読影医(評価A) 乳房超音波医師講習会(評価A) 日本外科感染症学会評議員 日本感染症学会認定 インфекションコントロールドクター(ICD) 外科周術期感染管理暫定教育医・認定医 日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医 家族性腫瘍コーディネーター 臨床遺伝専門医 日本乳癌学会評議員
山下 哲正	乳腺甲状腺一般	日本外科学会専門医 日本乳癌学会乳腺専門医
吉川公見子	乳腺甲状腺外科一般	日本外科学会専門医 日本乳癌学会乳腺専門医

皮膚科		
梅田 善康	皮膚悪性腫瘍	皮膚科専門医 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了

泌尿器科		
高本 篤	泌尿器悪性腫瘍	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡認定医 da Vinci certificate取得 医学博士 泌尿器ロボット支援手術プロクター(前立腺・膀胱・腎・副腎) 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会代議員 岡山大学医学部医学科臨床教授 身体障害者指定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
村田 匡	尿路性器腫瘍	日本泌尿器科学会専門医・指導医
三宅 修司	泌尿器科一般	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器ロボット支援手術プロクター(前立腺・膀胱) da Vinci Certificate取得(Console Surgeon) 緩和ケア講習会修了 Space OAR System Appliers Training 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 身体障害者指定医

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
藤井 孝法	泌尿器科一般	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医 da Vinci Certificate取得(Console Surgeon) 緩和ケア講習会修了
桑田 浩平	泌尿器科一般	
大西 俊輝	泌尿器科一般	

産婦人科		
青江 尚志	産科・婦人科全般	日本産科婦人科学会産科婦人科専門医・指導医 母体保護法指定医 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
早田 桂	産科・婦人科全般 周産期医学 出生前診断 遺伝医学 産科救急	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児) 臨床遺伝専門医 日本胎児心臓病学会胎児心エコー認証医 災害時小児周産期リエゾン 日本DMAT隊員 母体保護法指定医 医学博士 J-CMELSインストラクター 妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダー 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了 JATEC/JPTec/BLS/NCPRプロバイダー ALSO-Japanインストラクターキャンディード 日本周産期新生児医学会評議員 産科医療補償制度原因分析委員会部会委員
高原 悦子	産科・婦人科全般 周産期医学	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児) 母体保護法指定医 日本産科婦人科遺伝診療学会認定(周産期) 医学博士 NCPR/J-CMELSプロバイダー 妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダー 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
春間 朋子	産婦人科全般 婦人科腫瘍 婦人科内視鏡手術	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医 日本婦人科内視鏡学会技術認定医(腹腔鏡) 日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 da Vinci Certificate取得 医学博士 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
兼森 美帆	産科・婦人科一般	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児) 女性ヘルスケア専門医 母体保護法指定医 J-CMELSインストラクター 緩和ケア研修会修了 NCPRプロバイダー 日本産科婦人科遺伝診療学会認定(周産期)
富岡 領太	産科・婦人科一般	

眼科		
野田 拓志	緑内障、白内障	日本眼科学会専門医 日本網膜硝子体学会 PDT 認定医
小野 竜輝	眼科一般	日本眼科学会専門医
南川 駿	眼科一般	日本眼科学会専門医
垣野 義人	眼科一般	

耳鼻咽喉・頭頸部外科		
山下 安彦	頭頸部腫瘍 耳鼻咽喉科全般	日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医 岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科臨床教授 補聴器相談医
野田 洋平	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科一般	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医 補聴器相談医
平井 悠	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科一般	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医 補聴器相談医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
森脇 悠利	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科一般	

麻酔科・がんペインクリニック		
日高 秀邦	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医 麻酔科標榜医
安保 佳苗	麻酔科一般 心臓血管麻酔	日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医 日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医 日本周術期経食道心エコー認定医 麻酔科標榜医
石井 賢造	麻酔科一般 救急 集中治療	日本救急医学会認定医・専門医 日本麻酔科学会麻酔科指導医・専門医 麻酔科標榜医 日本集中治療医学会専門医 ICD制度協議会認定インфекションコントロールドクター

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
荒井 麻耶	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医 麻酔科標榜医
小坂 真子	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科専門医 麻酔科標榜医
竹中 志穂	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医 麻酔科標榜医 日本医師会認定健康スポーツ医
永島 聡美	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医 麻酔科標榜医
日野 佳恵	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医 麻酔科標榜医
矢島 悠太	麻酔科一般	日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医 麻酔科標榜医
大村 浩之	麻酔科一般	
島田 侑弥	麻酔科一般	日本専門医機構認定麻酔科専門医 麻酔科標榜医 日本周術期経道心エコー認定医 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
窪木福太郎	麻酔科一般	麻酔科標榜医
藤村 和臣	麻酔科一般	麻酔科標榜医 緩和ケア研修会修了
織田みちる	麻酔科一般	

リハビリテーション科		
藤井 俊宏	リハビリテーション一般	日本リハビリテーション医学会認定臨床医・専門医・指導医 日本整形外科学会専門医

放射線治療科		
田邊 新	放射線治療	日本専門医機構認定放射線科専門医 日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会共同認定放射線治療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 臨床研修指導医(養成)講習会修了 緩和ケア研修会修了
小林 満	放射線治療	日本医学放射線学会放射線治療専門医

放射線診断・IVR 科		
井田健太郎	画像診断	日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本核医学会PET核医学認定医 岡山大学医学部医学科臨床教授 日本医学放射線学会放射線科専門医
兵頭 剛	IVR 画像診断	日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本核医学会PET核医学認定医
佐伯 基次	画像診断	日本医学放射線学会放射線診断専門医 検診マンモグラフィー読影医
土橋 一代	画像診断	日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本核医学会核医学専門医 日本核医学会PET核医学認定医 健診マンモグラフィー読影医 臨床研修指導医(養成)講習会修了
長田 仁	放射線診断	
武川 真也	放射線診断	緩和ケア研修会修了

緩和ケア科		
岡崎 正典	緩和ケア	日本緩和医療学会認定登録医・代議員 緩和ケア研修・指導者研修会修了者 広島県施設緩和ケア推進検討会会長 日本医師会認定健康スポーツ医
浦野 真一	緩和ケア	日本緩和医療学会認定登録医 緩和ケア研修・指導者研修会修了者 日本消化器外科学会専門医

病理診断科		
重西 邦浩	病理診断学 細胞診 剖検	日本病理学会病理専門医 日本臨床細胞学会細胞診指導医 死体解剖資格 岡山大学医学部医学科臨床教授
大野京太郎	病理診断学 細胞診 剖検	日本病理学会病理専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医 死体解剖資格

名前	専門領域	学会認定医・専門医等
臨床検査科		
眞鍋 明広	内科一般 臨床検査	日本臨床検査医学会臨床検査管理医 日本専門医機構基本領域臨床検査専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本臨床検査医学会認定インフェクションコントロールドクター(ICD) 日本医師会認定産業医

腫瘍内科		
遠藤 久之	臨床腫瘍学 消化器内科 消化器内視鏡 がんの化学療法	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本内科学会認定教育施設指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本がん治療認定医機構暫定教育医・がん治療認定医
麻生 光美	臨床腫瘍学 内科一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医

歯科口腔外科		
目瀬 浩	口腔外科一般	日本口腔外科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・教育医(歯科口腔外科) 日本顎顔面インプラント学会専門医・指導医 日本口腔内科学会専門医・指導医 日本口腔外科学会代議員 岡山歯学会評議員 岡山大学歯学部非常勤講師 岡山大学歯学部医学科臨床教授・歯科医師臨床研修指導歯科医
山本 大介	口腔外科一般	日本口腔外科学会認定医・専門医・指導医 日本口腔内科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定歯科医師 歯科医師臨床研修指導歯科医 日本口腔ケア学会認定3級 AOCMF Focused Seminar修了
大原早紀子	口腔外科一般	日本口腔外科学会認定医

救急科		
柏谷 信博	救急 集中治療 外傷初期診療 腹部外科	日本救急医学会救急科専門医
米花 伸彦	救急 集中治療 外傷初期診療 緊急内視鏡	日本救急医学会救急科専門医 国際緊急援助隊登録
大熊 隆明	救急 集中治療 外傷初期診療	日本救急医学会救急科専門医
石橋 直樹	救急 集中治療 外傷初期診療	日本救急医学会救急科専門医 日本高気圧環境・潜水医学会高気圧医学専門医 日本集中治療医学会専門医
池上 良一	救急 集中治療 外傷初期診療	日本救急医学会救急科専門医
正保 稔史	救急 集中治療 外傷初期診療	日本救急医学会救急科専門医
永島 健太	救急 集中治療 外傷初期診療	日本救急医学会救急科専門医
橘高 早紀	総合診療	日本専門医機構認定総合診療専門医 日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医 緩和ケア研修会修了
高野 裕太	救急	日本救急医学会救急科専門医 米国医師国家試験 日本医師会認定産業医
坪井 彩花	救急	
工藤 梨世	救急	

初期臨床研修医				
井口 滉介	池田友衣子	岡 航大	河井 沙奈	富永 洋彰
二井 歩美	仁田 漱	橋本さつき	福岡 瑞己	三木 辰騎
宮澤 里菜	渡邊 慎也	胃甲 修嗣	河瀬 優里	佐々木 健
末次功士朗	千田圭一郎	仲 悠喜	中村 慧大	中山 優希
西岡 らん	長谷川稜斗	日谷菜々子	柳田美紗子	

地域とともに 診療部のご案内



2026年度 診療部基本方針

『つなぐ』

世代を超えて、すべての職種を『つなぐ』
地域医療、そして患者・家族の想いを一つに『つなぐ』
信頼の架け橋となる医療を



診療部長

高田 一郎

『つなぐ』—— 地域の先生方と信頼のかけ橋をつくり、患者さまの安心を支え続ける

地域の医療機関の先生方におかれましては、日頃より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
このたび4月1日付をもちまして、池田副院長の後任として診療部長を拝命いたしました。

本年度の診療部は、医師197名、ドクターアシスタント57名、歯科衛生士2名の計256名が所属する体制となりました。この大所帯を束ねる責任の重さを痛感し、日々身の引き締まる思いです。

私が医師になった33年前、当院の常勤医師数はわずか32名でしたが、今や初期臨床研修医も含め、約200名の医師を擁する病院へと成長いたしました。しかし、組織の規模が大きくなるにつれ、その質との間に乖離が生じるようなことがあってはなりません。規模が拡大しても、隅々にまで一貫した理念を浸透させ、臨床の現場において「きめ細やかな配慮」を徹底すること。それが診療部長である私の使命です。

大組織だからこそ成しうる「力強い推進力」を維持しながらも、常に病める患者さんとそのご家族の心身に寄り添い、お一人おひとりの僅かな変化も察知する「繊細な洞察」を忘れないこと。これこそが福山市民病院の医師に求められる姿であり、それを具現化すべく、引き続き診療部一同、一丸となって精進してまいります。

本年度、私は診療部の基本方針として『つなぐ』を掲げました。地域医療連携における『つなぐ』とは、先生方が大切に診てこられた患者さまを私たちが責任を持って引き継ぎ、真摯な姿勢で治療にあたった後、再び先生方のもとへ「安心」という形でお返しすることであると考えております。

私たち診療部は、「福山市民病院に任せて良かった」という確かな信頼を一つずつ積み上げてまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

診療部基本方針

患者さんに対して、“今、自らが行っている医療が最善なのか”を常に自問自答し、診療業務を遂行する

1. 患者さんの権利を尊重し、医療倫理を遵守して、患者さん中心のチームワーク医療を実践する。

- ・ 患者さんの思いを理解し患者さんにわかりやすく丁寧に説明し、十分な納得と同意のうえ、心のこもった診療を行う。
- ・ 診療録記載を充実し、入院においては適切な診療計画を作成し、患者さんおよびすべての医療従事者と診療情報を共有する。
- ・ ひとりだけで問題解決を図らず、医師のみならず他職種との相互の連携（報告・連絡・相談）を常に密に保つ。

2. 医療安全管理を徹底し、質の高い医療を提供する。

- ・ 最新のエビデンスに基づいた各種診療業務の標準化と、安全管理の徹底に努める。
- ・ 医療事故を未然に防ぐ努力を怠らず、しかし不幸にして医療事故が発生した場合には、礼を持って対応し、決して逃げず、隠さず、ごまかさない。事故の教訓を共有し、再発防止に努める。
- ・ 学会発表、論文発表を積極的に行い、自己研鑽に励むとともに、職員の教育・研修を推進する。
- ・ 診療各科の診療実績を把握し、年次報告を行う。

3. 地域医療機関と連携し、地域の中核的な急性期病院としての責務を果たす。

- ・ 重症の救急患者さんを可能な限り受け入れ、診療各科と一致協力し、迅速で的確な救急医療を実践する。
- ・ 迅速かつ詳細な診療情報を提供し、地域連携パスなどを活用し、地域医療支援病院として、病診・病病連携の促進を図る。
- ・ 院外を対象にしたオープンカンファレンスを積極的に開催し参加する。

4. 効率的で無駄のない診療を行う。

- ・ 臨床経過と病態を的確に把握し、不必要な検査・治療は可能な限り行わない。
- ・ 患者さんの経済的負担を常に考慮し、特段の必要性がなければ、できるだけ安価な同効薬や同機能の診療材料を使用する。
- ・ 医療の質を恒常的に評価、改善し、患者さんおよび医療従事者にとって効率的な診療を目指す。

内科 Internal Medicine

診療の特色・対象疾患・実績

～「ここに届く医療を、地域とともに」大内科で地域医療を支えます～

◆ 診療の特色

福山市民病院 内科は臓器別の診療科に分かれず、ひとつの「大内科」として各分野の専門医が一体となり総合的な医療を提供しています。

当科には17名の日本内科学会総合内科専門医が所属し、また内科各分野にそれぞれ専門医を配することで内科全分野を網羅する体制を構築しています(内分泌領域についても非常勤医師により対応しています)。

当科は単一臓器にとどまらない複雑な病態、特に高齢・多疾患併存の患者さんに対して、多角的かつ柔軟なアプローチが可能であり、院内他科とも密接に連携した入院・外来診療を実践しています。

◆ 診療実績(2025年度)

【入院部門】

- 延べ入院患者数: 50,904人→前年度から2,896人増加(実数5,024人)
- 1日平均入院患者数: 139.5人(前年度131.5人)

【外来部門】

- 延べ外来患者数: 51,207人(前年度: 50,695人)
- 1日平均外来患者数: 211.6(前年度: 138.9人)
- 紹介患者数: 2,375人(前年度2,281人)

◆ 研究・教育活動

- 内科専攻医が筆頭著者の英文症例報告が複数の国際誌に掲載
- 常勤医・専攻医ともに学会で優秀賞を受賞、英文論文文化へ取り組み中
- 専攻医指導体制も充実し、教育病院としての質を継続的に向上させています

〈肝臓〉

広島県内に2か所設置された肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患診療に係る医療情報の提供・研修会や講演会の開催・肝疾患に関する相談支援・医療費助成制度の案内などを行い、地域連携の強化もすすめています。肝臓専任スタッフ5名、非常勤肝臓専門医2名で診療にあたり、肝機能異常、肝腫瘍などの診療を幅広く行っております。

2023年度からの3年間でラジオ波焼灼療法 156件、肝動脈化学塞栓療法 69件、肝動注化学療法 119件を実施し、免疫チェックポイント阻害剤も79例(テセントリク/アバスタチン57例、イジウド/イミフィンジ21例、オブジーボ/ヤーボイ1例)に導入しました。ラジオ波焼灼療法については鎮痛法の改善やCTガイドを併用した穿刺などの工夫をすることで苦痛なく安全で確実な治療を実施しております。

今年度から若手の肝臓専任スタッフが増員となりましたので、さらに地域医療へ貢献してまいります。

〈消化管〉

治療内視鏡(ESD、ポリプ切除、消化管ステント、食道静脈瘤硬化療法、緊急内視鏡など)に力を入れています。2025年度は全検査件数7,478件でした。2025年度のESDは176件(食道45、胃81、大腸50)、大腸ポリプ切除914件、消化管ステント74件、食道静脈瘤治療(EISL+EVL)55件、消化管止血術(上部+下部)209件でした。

また内視鏡スタッフは6名(消化管4名・専攻医2名)です。時間外緊急内視鏡は肝胆膵グループとも協力して対応しています。今後も緊急内視鏡等にも迅速に対応してまいります。

〈胆膵〉

胆道学会指導施設(胆道指導医3名)・膵臓学会指導施設(膵臓指導医2名)で、胆膵専門の消化器内視鏡医を5名(スタッフ3名+専攻医3名)配しています。2025年度はERCP584件、胆膵EUS(超音波内視鏡)790件、EUS-FNA(超音波内視鏡下穿刺術)143件で計1,517件でした。EUSによる膵のう胞(IPMN等)や胆嚢腫瘍の精密検査から、EUS-FNAによる膵腫瘍の組織学的確定診断や最新の超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)まで幅広く施行しています。閉塞性黄疸や総胆管結石の緊急ERCPIにも迅速かつ安全に対応しています。



胆膵超音波内視鏡

〈呼吸器〉

◇当科では以下の専門医・指導医が診療・教育にあたっております

- 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医 2名
- 日本アレルギー学会 アレルギー専門医・指導医 1名
- 日本呼吸器内視鏡学会 専門医・指導医 1名
- 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医 1名

良性疾病から悪性腫瘍まで幅広い呼吸器疾患に対応可能で、常勤・非常勤の専門医が連携し、総合的な診療を実現しています。

◇2025年度より専門医による「間質性肺炎専門外来」を新設しました。週1回の診療ながら、豊富な経験を活かした診療を行っています。

◇肺がん診療では、4期肺がんにおいても長期生存が期待できる時代となりました。当院では最新の日本肺癌学会診療ガイドラインに基づき、以下の治療を展開しています。

- がん遺伝子(ドライバー遺伝子)解析に基づく分子標的治療
- 免疫チェックポイント阻害薬と化学療法の併用療法
- 最新薬剤(BITE: 二重特異的T細胞誘導抗体、二重特異性抗体)など新規薬剤導入

これらの治療に必要な十分な腫瘍組織の採取には、専門的な内視鏡技術が求められます。当科では以下の検査を日常的に実施し、迅速な診断と治療開始を支えています。

- EBUS-GS(超音波気管支鏡ガイド下生検)
- 迅速細胞診(ROSE)を併用した確実な組織採取
- EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下縦隔リンパ節生検)

呼吸器外科との連携による周術期免疫療法も展開し、肺がん診療の拠点病院として地域に貢献しています。

〈血液〉

日本血液学会専門医4名(日本血液学会指導医1名、日本臨床腫瘍学会指導医1名)で診療を行っています。クリーンルーム(無菌病室)を5床有しており、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液悪性腫瘍はもちろんのこと、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血、血栓性血小板減少性紫斑病など、良性疾病の治療も行っています。週に1回、検査技師との骨髓鏡検カンファレンス、看護師との病棟カンファレンスを行い、多職種連携によるチーム医療を実践しています。また、2025年より造血器腫瘍遺伝子パネル検査(ヘルムサイト)を導入して、より質の高い医療が提供できるように努めています。

〈腎臓〉

2026年度は常勤医3名+非常勤医2名(外来:木曜日、血液透析:金曜日)での診療、院内紹介や急患対応、入院対応を行っています。検尿異常から慢性腎臓病(CKD)の管理、透析療法に至るまで腎疾患全般にわたり診療を行っています。2025年度は腎生検を13例実施し、治療方針を立案し診療にあたりました。また透析患者さんの他科入院中の血液透析を担当し新規導入患者は43人でした。他科と連携して持続緩徐式血液濾過透析や血漿交換、特殊アフェリシス療法にも対応しています。

〈がん薬物療法・緩和ケア〉

内科内のがん患者さんに対するがん薬物療法を中心とした治療を行っています。がん看護外来、緩和ケアチームと連携しながら緩和治療・各種サポートも並行して行うことで患者さんのご希望に添ったより良い治療を目指しています。
その他、がんゲノム外来も担当しております。

〈糖尿病〉 常勤医師が他科と併診している患者の外来フォローと、周術期などの入院患者の血糖コントロールを行っています。

〈リウマチ・膠原病〉

当科は常勤医1名、非常勤医1名の体制で診療を行っております。初診外来は毎週木曜日、再診外来は月曜日と金曜日に開設しており、第1・第3金曜日は非常勤医師が診療を担当いたします。緊急の対応が必要な場合には、地域連携室を通じてご連絡いただければ可能な限り対応いたします。持続する関節痛・関節炎や抗核抗体陽性などの膠原病疑い、あるいは関節リウマチの治療見直しが必要な症例など幅広く受け入れております。近年の診療実績は外来延べ患者数(実患者数)で、2023年度 2,055人(451人)、2024年度 2,579人(608人)、2025年度 2,934人(747人)であり、2025年度の紹介元医療機関数は82施設となっております。症状安定後は「逆紹介」を推進しており、地域の先生方と連携しながら、最新かつ質の高い治療を提供できるよう努めております。引き続き、福山医療圏におけるリウマチ・膠原病診療の拠点の一つとして、地域医療に貢献してまいります所存です。引き続きよろしくお願いいたします。

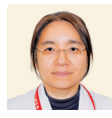
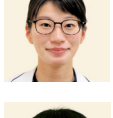
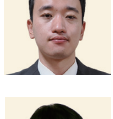
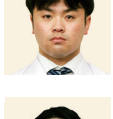
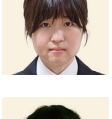
〈地域医療機関の先生へ一言〉

当院 内科は「こころに届く医療を、地域とともに」大内科で、地域医療を支えてまいります。そして患者さんにとっても先生方にとっても安心して紹介できる内科診療の提供を目指しています。診断や治療にお困りの患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

◆お願い

内科外来は原則予約制であり、当日の飛び込み受診患者への対応が困難となっています。当日にご紹介いただく際は、医師へ直接お電話にてご確認下さい。また緊急性の低い症例につきましては地域医療連携課へ予約申し込みいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

〈スタッフ紹介〉

	院長 医療支援センター長(胆膵) 植木 亨		診療部長、科長(呼吸器) 広報室長 高田 一郎		医療技術部次長 (肝臓) 藪下 和久		臨床研究部次長 統括科長(胆膵) 小川 恒由
	科長 (がん薬物療法・緩和ケア) 寺尾 正子		科長(腎臓) 十倉 健彦		科長(消化管) 名和 徹		科長(呼吸器) 三谷 玲雄
	科長(血液) 野村 奈穂		科長(肝臓) 教育研修推進室副室長 医療情報・DX推進室副室長 安中 哲也		科長(消化管) 小林 沙代		科長(呼吸器) 谷口 暁彦
	科長(内科一般) 太田 茂		科長(腎臓) 大西 章史		科長(血液) 杉浦 弘幸		科長(胆膵) 皿谷 洋祐
	科長(糖尿病) 高橋 寛子		科長(消化管) 根岸 慎		科長(リウマチ・膠原病) 赤木 貴彦		科長(呼吸器) 下西 惇
	科長(血液) 大山 矩史		医長(呼吸器) 武口 哲也		医師(肝臓) 石原 朗雄		医師(内科一般) 島田 佳祐
	医師(腎臓) 橋口 瑠莉		医師(消化器) 岡本 梨栄		医師(肝臓) 宮本 奈実		医師(血液) 水野 悠己
	医師(肝臓) 植松 凜也		医師(内科一般) 岡 智彦		医師(内科一般) 吉成 皐		医師(内科一般) 猪木 祐利
	医師(内科一般) 松崎 健輔		医師(内科一般) 岡本 雅史		医師(内科一般) 小橋 英里香		医師(内科一般) 高嶋 遼太郎
	医師(内科一般) 名木田 翔		医師(内科一般) 難波 和希				

精神科・精神腫瘍科 Psychiatry・Psycho-Oncology

診療の特色

当科は、精神疾患を合併した身体疾患治療中の患者さんの精神科治療（リエゾン精神医学）を専門とし、下記3つのリエゾン診療を行っています。

1. がん医療における精神医学的治療：精神腫瘍学（サイコオンコロジー）
2. 救命救急センターにおける精神科診断と治療
3. その他の急性期医療に合併する精神科疾患の治療

特に、入院中の高齢者に生じやすいせん妄については、認知症ケアチームと精神科リエゾンチームの活動で予防と早期介入を重視した臨床を行っています。また、高侵襲の予定手術前のせん妄ハイリスク症例で睡眠薬を長期連用している患者さんを対象として、当院他科主治医からの外来紹介による周術期精神科外来を行っており、より安全な入院治療が実現するように工夫しています。

〈対象疾患〉

精神疾患をお持ちで当院に入院中の患者さんの診療を行っています。

せん妄、睡眠障害、うつ病、適応障害、統合失調症、がんによる気持ちのつらさなど。

〈診療実績〉

2025年度、ICD-10分類による統計より、抜粋

F0	せん妄等症状性を含む器質性精神障害	448件
F1	アルコール等精神作用物質使用による精神および行動の障害	16件
F2	統合失調症	41件
F3	うつ病、双極症等気分障害	37件
F4	適応障害等神経症性障害	41件
F5	睡眠障害等	42件
(F6以降略)		

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当院理念の『良質で信頼される医療を提供すること』を常に心掛け、入院患者さんに対する安全な医療を提供してまいります。

〈スタッフ紹介〉



科長
教育研修推進室長
平 俊浩



科長
小田 幸治



公認心理師
黒田 理子



公認心理師
畑山 奈都

脳神経内科 Neurology

診療の特色

頭痛、めまい、手足のしびれといった日常よく経験する症状から、認知症や運動麻痺、言語障害、痙攣まで幅広く診察しています。

対象疾患としては片頭痛、てんかんなどの頻度が高い病気を始め、アルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィーなどのまれな神経難病の診療も行っています。生理検査部門の協力で神経伝導検査や脳波検査などの電気生理学的検査も行い、CT・MRI・核医学検査など画像検査も積極的に行っています。

〈対象疾患〉

- ・アルツハイマー病などの認知症
- ・パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病
- ・片頭痛、緊張型頭痛
- ・てんかん
- ・ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などの末梢神経障害
- ・多発性硬化症、視神経脊髄炎
- ・多発筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患、重症筋無力症
- ・髄膜炎、神経梅毒などの感染症
- ・下肢静止不能症候群など

〈診療実績〉

2025年度外来受診数は2,818人で、前年度よりも87人減少しました。初診数は65人でほぼ横ばいでした。紹介率は71.6%で、逆紹介率は101.1%でした。

2025年度入院患者数は21人で、前年度より減少。てんかん発作（重積状態を含む）が最多で、他にはパーキンソン病関連疾患、免疫性ニューロパチーなどの診療を行いました。

〈スタッフ紹介〉



科長
深井 雄太



医師
本間 拓也

〈地域医療機関の先生へ一言〉

幅広く神経筋疾患の診療を行っております。最近物忘れがひどくなった、数か月～数年前から歩行が悪くなった・転倒しやすい、急に力が入らなくなった・しびれ感が出現、頭痛やめまいの頻度が増えた、意識を失うことがあった・痙攣したなどありましたら脳神経内科の疾患の可能性が高く、ご相談いただけましたら幸いです。

診療の特色

循環器診療の原点は“救急”です。そのために、日々努力しておりますが、心臓血管センターにおける、医師数の減少、働き方改革の影響での備後医療圏全体の循環器疾患受け入れ能力の低下も加わり、救急受け入れ不能な状態が頻回に出てきています。周囲の病院とも協力しながら、当院では一刻を争う患者さまの受け入れに注力して、できるだけ地域の患者さまをこの圏域で受け入れられるよう模索していきたいと考えています。

日本循環器学会・日本心血管インターベンション治療学会・日本不整脈心電学会の教育施設であり、冠動脈疾患、末梢動静脈疾患、徐脈性不整脈、頻脈性不整脈、心不全、高血圧を中心に成人の循環器疾患全般に対して良質で安全な治療を提供すべく日々努力しております。

カテーテル手技を用いた侵襲的治療、薬物治療、心臓リハビリテーションの3つの柱を中心に治療を行っています。

冠動脈疾患や末梢動静脈疾患は、主にカテーテルにて治療を行います。治療に難渋する症例（高度石灰化や慢性完全閉塞病変）が多いも、国内で使用可能な機器は、ほぼ全て用意しており、より高度で安全な治療を心掛けております。

上室性頻拍、心房細動・粗動、心室性不整脈などの頻脈性不整脈には、カテーテルアブレーションにて、徐脈性不整脈や高度に心機能低下した心不全症例には、ペースメーカーの埋め込みを行っています。心房細動におけるアブレーションにおいては、心臓の負担軽減および将来的な心不全回避も目標の一つになるため、長期予後を考慮した治療戦略を念頭に、最新の機器も導入して、より安全な治療に当たっております。

心不全を中心とした薬物治療は、必要な薬剤を短期間で多数、同時に導入し、ADLを維持しながら、早期の退院を目指しています。

リハビリテーションでは、心不全の早期の状態改善を目指し、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士を含めた多職種が一丸となって包括的な心臓リハビリを入院急性期から退院後まで積極的に行っております。

また併存疾患を持った症例が増加していますが、総合病院の強みである専門の診療科と協力しながら治療方法を工夫し、早期退院を心掛けています。

〈対象疾患〉

- 冠動脈疾患（安定冠症候疾患、急性冠症候群）
- 末梢動静脈疾患（下肢動脈狭窄、腎動脈狭窄、鎖骨下動脈狭窄など）
- 重症下肢虚血（足趾にいきなり潰瘍ができたり壊死をおこします）
- 頻脈性不整脈（心房細動、粗動、房室結節回帰性頻脈、WPW症候群、心室頻拍など）
- 徐脈性不整脈（洞機能不全症候群、徐脈頻脈症候群、房室ブロックなど）
- 心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症、閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、閉鎖不全症など）
- 心不全（虚血性心疾患、不整脈、心筋症、高血圧、弁膜症を原因とするものなど）
- 難治性高血圧症
- 肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症

〈診療実績〉

2025年度	
心臓カテーテル検査	652例
冠動脈形成術	326例
末梢動脈形成術	129例
アブレーション	183例
ペースメーカー植え込み術	149例
植込型除細動器、心臓再同期療法	13例

〈地域医療機関の先生へ一言〉

状態悪化時の対応をできる限り可能にするため、周囲の病院とも協力しながら地域全体で密接な連携を取り、診療を進めていくことが必須と考えています。今後とも当科との連携およびご指導の程よろしくお願いいたします。

〈スタッフ紹介〉

	診療部次長、統括科長 吉川 昌樹		科長 森本 芳正		科長 荒井 靖典		科長 内藤 洋一郎
	科長 岡 明宏		医長 武智 龍之介		医師 岡田 倫英		医師 清水 沙紀

小児・新生児科 Pediatrics・Neonatology

診療の特色

当院小児・新生児科では各医師の専門性を生かして、腎臓病、内分泌疾患、神経疾患、循環器疾患、血液・腫瘍疾患、アレルギーおよび新生児疾患の7つの専門領域を診療の軸にしています。

小児腎臓病の診療では腎炎やネフローゼ症候群などの治療、学校検尿異常者の精密検査と管理、先天性腎尿路奇形の診断や管理、夜尿症の治療などを行っています。また、腎炎やネフローゼ症候群の治療に際しては必要に応じて腎生検を施行して治療方針を決めています。(担当医師 安井雅人)

小児内分泌疾患の診療では低身長、思春期早発症、クレチン症やバセドウ病などの甲状腺疾患および糖尿病の専門的治療を行っています。特に、1型糖尿病の治療においては毎日の生活様式が一定でない小児に対応するため、インスリンポンプ療法や持続血糖モニタリングを導入して厳密な管理を行っています。(担当医師 飛梅斎)

小児神経疾患の診療ではけいれん性疾患を中心に脳波検査や頭部MRI検査などの画像検査を行うことにより、てんかんの診断や治療を行っています。

小児循環器疾患の診療では心雑音の精密検査や学校心臓検診の異常者に対する精密検査を行っています。また、胎児心エコー検査を行っています。(担当医師 河津由紀子、日置里織、小寺亜矢)

小児血液・腫瘍疾患の診療では岡山大学と連携して血液疾患や悪性腫瘍の診療を行っています。(担当医師 村岡倫子)

新生児疾患の診療では、早産児や低出生体重児などの診療を行っています。また周産期母子医療センターを開設します。(担当医師 渡邊宏和、岡村 朋香、松隈知恵)

〈対象疾患〉

- 腎臓領域(ネフローゼ症候群・慢性腎炎・学校検尿異常者・先天性腎尿路異常)
- 内分泌・糖尿病領域(低身長・思春期早発症・糖尿病・甲状腺疾患、学校健診)
- 神経領域(てんかん)
- 循環器領域(心雑音・学校心臓健診異常者)
- 血液・腫瘍領域(貧血・血小板減少症・白血病・悪性腫瘍・血友病)
- 新生児領域(早産児・低出生体重児)

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当院小児・新生児科の特徴である幅広い分野での専門性を活かして地域に良質で信頼される医療を提供していきます。

〈スタッフ紹介〉

	診療部次長、 統括科長 飛梅 斎		科長 占部 智子		科長 河津 由紀子		科長 日置 里織
	科長 村岡 倫子		科長 小寺 亜矢		科長 岡村 朋香		科長 渡邊 宏和
	医長 森田 詩織		医師 木村 崇		医師 中村 祐太		医師 安井 雅人
	医師 松隈 知恵						

小児専門外来 Specialty Pediatric Outpatient Department

診療の特色

小児科専門外来では、主に小児アレルギー疾患(気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎など)に対する専門診療を行っており、日本アレルギー学会指導医2名および専門医1名を擁しています。

食物アレルギー：食物経口負荷試験はクリニカルパスを使用しガイドラインに沿った方法を確立しています。負荷試験の結果に基づいた適切な除去食指導や経口免疫療法、また、アナフィラキシーに対する初期対応指導・エピペン処方や指導も行っています。

気管支喘息：重症度に応じた適切な治療を実施し、吸入ステロイドの導入・吸入指導等も行います。スパイロメーターや呼気NO検査による呼吸機能や気道炎症の評価も行っています。重症喘息に対する抗IgE抗体製剤、抗IL-5抗体製剤、抗IL-4/IL-13抗体製剤等による治療も行っています。

アレルギー性鼻炎：耳鼻科との連携を行いながら、抗アレルギー剤や舌下免疫療法を行っています。

アトピー性皮膚炎：スキンケア指導・ステロイドやタクロリムス、デルゴシニブ、ジファミラスト等を組み入れたプロアクティブ療法などを含む外用指導を行っています。

〈対象疾患〉

- アレルギー領域(食物アレルギー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・花粉症・蕁麻疹)

〈スタッフ紹介〉

	医師(非常勤) 池田 政憲		医師(非常勤) 津下 充		医師(非常勤) 桜井 百子
---	------------------	---	-----------------	---	------------------

診療の特色

「エビデンスに基づき、質の高い医療を安全に行い、得られた知見を内外に発信すること」を基本方針として診療に当たっています。

当科では、患者さまにより専門性が高く、安全で最適な医療「高度専門医療」を提供するため、領域別診療体制を採用しています。上部消化管グループ、下部消化管グループ、肝胆膵グループが、それぞれの領域に特化した最新の知見に基づく診断・治療を担当し、チーム一丸となって診療に当たります。一方、複数臓器にまたがる病態や複雑な合併症を有する患者様に対しては、外科全体で綿密に連携し、最善の結果が得られるよう協働して診療を行っています。

消化器「がん医療」においては、常に最新の各種がん診療ガイドラインを基盤としています。消化管カンファレンスや肝胆膵カンファレンスなどの領域別カンファレンスに加え、がん診療に関わる全診療科が参加するがん診療カンファレンスをそれぞれ週1回開催しています。これにより、最新の知見を積極的に取り入れるとともに、患者さまの背景に配慮したガイドライン+αの治療を検討しています。

また、外傷や急性腹症といった腹部「救急医療」においても、初動から治療方針に至るまで、最新の診療ガイドラインに基づいて対応しています。重症例に対しては、救急科や放射線科と連携し、当院の医療機能を最大限に活用した集学的治療により最良の経過を目指しています。

当院では、早期より腹部外科手術領域において低侵襲手術を導入しており、日本内視鏡外科学会技術認定医（計5名）が各診療グループに在籍しています。ロボット支援手術についても、2021年に胃、2022年に肝臓・膵臓、2023年に直腸、2024年に結腸へと段階的に安全に導入しています。

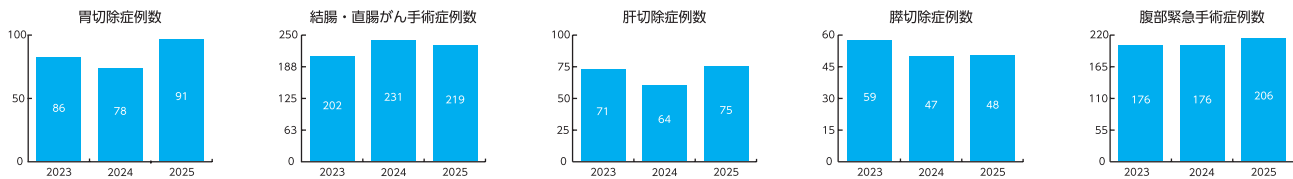
胃がん・大腸がんにおいては日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の参加施設として、がん治療における標準治療の確立を目的とした臨床試験にも積極的に参加しています。

さらに当科は、岡山大学広域外科研修プログラムの連携施設であり、同プログラム開始の2018年以来、毎年後期研修医を受け入れています。消化器外科医不足が懸念される中、これまでに連携施設内最多の19名の人材を育成してきました。

〈対象疾患〉

- 消化器領域の悪性腫瘍（食道がん・胃がん・十二指腸がん・小腸がん・大腸がん・肝がん・胆道がん・膵がんなど）
- 腹部領域の良性疾患（食道アカラジア（無弛緩症）、食道裂孔ヘルニア、胆石症、鼠経部ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、直腸脱など）
- 外科的腹部救急疾患（特発性食道破裂、胃潰瘍・十二指腸潰瘍穿孔、絞扼性腸閉塞、大腸憩室穿孔、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、腹部外傷など）

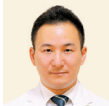
〈診療実績〉



〈地域医療機関の先生へ一言〉

2023年度手術用ロボットの機器更新と導入によりロボット2台体制となりました。手術による体の負担を最小限に、できるだけQOLを落とさない、そして安全を最優先により質の高い手術を目指して治療成績の向上を目指します。入院から退院、そして外来でも、患者さんやご家族の立場に立って「最善の医療」が提供できるようにカンファレンスなどを通じて、治療方針を立て実践してまいります。「高度な医療を安全に」、「複雑な医療をスマートに」行うとともに、知見を地域に還元し、地域の先生方に満足していただけるようこれからも努力を続けてまいります。

〈スタッフ紹介〉

	事業管理者（肝胆膵） 高倉 範尚		診療部次長 統括科長（肝胆膵） 感染対策室長、 教育研修推進室副室長 日置 勝義		科長（肝胆膵） 信岡 大輔		科長（下部消化管） 黒瀬 洋平
	科長（下部消化管） 石川 亘		科長（上部消化管） 安全管理室副室長 香川 哲也		科長（下部消化管） 三浦 奈緒子		科長（肝胆膵） 三島 顕人
	科長（消化器外科） 西村 星多郎		医師（外科一般） 河合 健吾		医師（外科一般） 原 和輝		医師（外科一般） 土井 廉太郎
	医師（外科一般） 高田 将汰		医師 野々垣 賢人		医師（外科一般） 村上 拓		

呼吸器外科 Chest Surgery

診療の特色

2026年4月から呼吸器外科スタッフは、室院長が退官後も参与としてサポートを継続いただき本年度も4名体制で担当します。主となる肺がんについては、術前カンファレンスでの呼吸器内科、腫瘍内科との相談により治療方針が決定されます。内科、放射線治療科との連携のもと、進行・再発肺がん症例に対する術前・術後の免疫療法を含めた化学療法、放射線療法も行っています。また気胸、膿胸、外傷を中心とした救急疾患にも他科と連携をしながら幅広く対応しています。胸腔鏡手術を中心とした低侵襲手術が多く、2023年度からロボット支援手術(Da Vinci手術)を導入、現在まで安全に活用しています。

〈対象疾患〉

主な領域：肺がん、転移性肺腫瘍、気胸、縦隔腫瘍、胸部外傷、膿胸などの外科治療

〈診療実績〉

2025年1月～12月手術件数は178件で例年と概ね変わらない手術件数でした。

疾患別の手術症例数は右表の通りです。

再手術治療が必要な術後合併症は1例で、術後肺炎による膿胸が原因でした。

*2025年・手術症例：178例

原発性肺がん	78例	肺・胸膜生検	4例
気胸・肺嚢胞	15例	縦隔リンパ節生検	0例
転移性肺腫瘍	19例	良性肺腫瘍	8例
胸部外傷	19例	膿胸	17例
縦隔腫瘍	8例	その他	10例

〈地域医療機関の先生へ一言〉

肺がん治療の呼吸器外科領域は、ロボット支援手術から早期肺がんへの縮小手術、進行肺がんへの術前/術後の免疫チェックポイント阻害剤の採用まで、近年治療方針の更新が著しいものになってます。治療の選択肢が増えていく中、各患者さまに応じた最適で安全な治療をモットーに診療に取り組んでまいります。

〈スタッフ紹介〉



参与
室 雅彦



統括科長
山田 英司



医長
林 直宏



医師
下見 怜央

整形外科 Orthopaedic Surgery

診療の特色

2005年の救命救急センター開設以来、整形外科は重度外傷の治療に対応するため、インプラントの常備、手術室受け入れ体制の強化、スタッフの充実を図り、2007年から常勤の脊椎外科医を迎え入れました。当科医師数は2004年以降徐々に増加し、現在11名で日常診療、手術および救命救急診療を担っています。近年は慢性疾患(脊椎外科、関節外科など)にも幅広く対応できるように機能拡大を行っております。

〈対象疾患〉

外傷(一般的な骨折、重度四肢骨盤外傷、脊椎外傷など)、脊椎慢性疾患、四肢関節変性疾患(人工関節置換術、骨切り術など)、スポーツ外傷など

〈診療実績〉

コロナ禍では一時的に手術件数が減少しましたが、例年約1,100件の手術(四肢外傷約55%、脊椎約25%、関節約15%、その他約5%)を行っております。他院では対応困難な重度多発外傷、高リスク症例に対応できることを優先しております。

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当院では四肢・骨盤外傷と脊椎疾患を主な治療対象としておりましたが、近年はスポーツ外傷、人工関節置換術をはじめとする関節疾患も対応が可能ですので、いつでもご相談ください。

〈スタッフ紹介〉



中央手術部次長
山名 圭哉



診療部次長、
統括科長
寺田 忠司



科長
岡田 幸正



科長
横尾 賢



科長
青山 美奈絵



科長
村岡 聡介



科長
道味 久弥



科長
近藤 洵也



医師
森谷 建彦

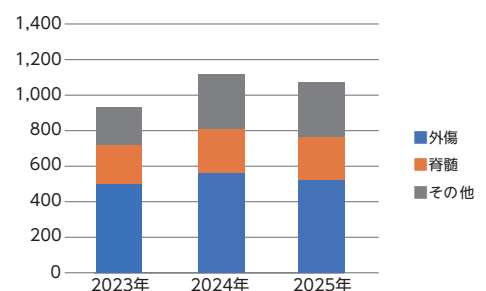


医師
中川 知軌



医師
高田 涼平

〈手術件数〉



形成外科

Plastic and Reconstructive Surgery

診療の特色

形成外科は、身体に生じた欠損や変形などに対して形態的にも機能的にも本来あるべき姿に再建修復し、また、整容的によりきれいにすることによって、生活の質"Quality of life"の向上を目指す、外科系の専門領域です。

当科は、皮膚・皮下・軟部腫瘍と顔面、四肢外傷の患者が多い傾向があります。皮膚・皮下・軟部腫瘍に対しては皮膚科と情報を共有し、個々の症例に対し最適な治療方針を検討しています。また、乳がん術後に対する人工物を用いた乳房再建術、口腔がん切除後の再建、整形外科の四肢重度外傷後の軟部組織再建などの依頼を多く受けています。

さらに、糖尿病性足壊疽や足潰瘍に対しては、循環器内科と足の救済(歩行の維持)に挑んでいます。

〈対象疾患〉

新鮮外傷(切創、擦過傷、裂挫創、刺創、咬傷など)
新鮮熱傷(全身管理が必要な症例は救急科が主科となります)
顔面骨骨折(下顎骨骨折は歯科口腔外科が主科となります)
顔面軟部組織損傷
手足の先天異常(合指症、多指症、多合趾症)
手足の外傷(切断指再接着は行っておりません)
その他の先天異常、外表異常(陥没乳頭、臍ヘルニア、耳前瘻孔など)
色素性母斑、脂腺母斑(当科では母斑に対するレーザー治療は行っておりません)
皮膚・皮下良性腫瘍、軟部腫瘍
悪性腫瘍およびそれに関連する再建(乳がん術後の乳房再建、口腔がん切除術後再建)
瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド
褥瘡、難治性潰瘍(糖尿病性足壊疽、閉塞性動脈硬化症に伴う足壊死)
眼瞼下垂症や睫毛内反・外反症

〈診療実績〉

入院患者数238人(54人増)、外来患者数1,654人(88人増)、初診患者数373人(27人増)、紹介率79.5%、手術件数461件(72件増)、平均在院日数9.6日

手術件数の主な内訳 腫瘍143件(うち悪性27件)、熱傷23件、乳房再建(組織拡張器2件、シリコンインプラント8件)、頭頸部再建(遊離皮弁2件、動脈皮弁2件)、顔面骨折26件、足趾壊死・潰瘍手術50件

〈地域医療機関の先生へ一言〉

診断がつかず迷う皮膚・皮下腫瘍に対しては、当科ではまず外来でエコー検査を行い、必要があればCTやMRIで精査を行うことで安全に治療できるようにしております。腫瘍の大小は関係なく、是非ご紹介ください。

また、処置を継続してもなかなか治らない創傷や皮膚潰瘍に対しては、当科受診をご検討ください。近年糖尿病足壊疽の件数も増加傾向にあります。個々の症例に対し創治癒遅延の原因を考え、治療方針について検討し、手術で改善できる症例に対しては手術を勧め、不要な場合や不可能な場合は可能な限り速やかに創治癒が得られるように努力します。

結果に満足していただける質の高い医療を提供できるよう、常に心掛けております。

〈スタッフ紹介〉



統括科長
山本 康弘



医師
有安 拓巳



医師
林 将太郎



医師
高橋 咲季

脳神経外科

Neurosurgery

診療の特色

脳神経外科では脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患、機能性疾患、水頭症など、脳神経外科領域全般にわたって診療しています。救急疾患には365日24時間体制で対応しています。

脳血管障害につきましては、脳出血に対して開頭術や定位脳手術による血腫除去術、脳動脈瘤(破裂・未破裂)に対してクリッピング術(開頭術)やコイル塞栓術(血管内手術)、超急性期脳梗塞に対してアルテプラゼ静注療法や血栓回収療法などを実施しています。また、早期にリハビリテーションを開始し、回復期リハビリテーションへスムーズに移行できるように脳卒中地域連携医療を推進し、患者さん・ご家族をチーム医療で支援いたします。さらに、再発予防のための対策も重要で、抗血栓薬の投与や基礎疾患の管理だけでなく、頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術(CEA)および頸動脈ステント留置術(CAS)なども実施しています。

脳腫瘍につきましては、綿密な治療計画に基づき、手術・放射線療法・化学療法・分子標的療法などの集学的治療を行っています。転移性脳腫瘍に関しては、当院が地域がん診療連携拠点病院であるため、関連科と協力しながらがん診療体制を構築しています。また、放射線治療科と協力して定位放射線治療にも対応しています。

頭部外傷につきましては、当院の救命救急センターが広島県東部の三次救急を担っていることから、重症例や全身多発外傷が多いという特徴があります。そのような症例においても、救急科・関連科と協力することにより良好な成績をあげています。

備後地域の三次救急を担う重要部門のひとつとして、その役割を果たしていきたいと考えております。

〈対象疾患〉

脳血管障害(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞など)

脳腫瘍(がんの転移も含めて)

頭部外傷

機能性疾患(三叉神経痛や片側顔面けいれん)

水頭症、脊椎・脊髄疾患、てんかん、その他

〈診療実績〉

主な手術症例

	脳腫瘍 摘出	脳動脈瘤 クリッピング	脳動脈瘤 コイル 塞栓術	CEA	CAS	頭蓋内血腫 除去術 (開頭)	経皮的脳血 栓回収術	穿孔 洗浄術	水頭症手術 (シャント手術)
2023年	8	8	1	2	0	17	8	19	9
2024年	5	3	0	2	0	12	6	40	2
2025年	5	10	0	1	1	13	3	38	5

〈地域医療機関の先生へ一言〉

地域の諸先生方との連携を図り、地域医療に貢献させていただき所存です。至らぬ点も多々あると思いますが、ご容赦ください。何かお気付きの症例がございましたら、ご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

〈スタッフ紹介〉



統括科長
大同 茂



科長
金 一徹



科長
木村 颯

心臓血管外科 Cardiovascular Surgery 心臓血管センター

診療の特色

2026年度より林田智博(統括科長)、末澤孝徳(中央手術室次長)、吉田賢司(科長)、藤本遼(医師)の常勤4人体制となりました。全員が心臓血管外科専門医を取得しており、喜岡幸央(非常勤:金曜日外来)協力のもと、高度な専門的治療を行ってまいります。

心臓手術(狭心症、心筋梗塞、弁膜症、腫瘍、左室疾患、不整脈等)、大血管手術(動脈瘤、動脈解離、狭窄)、末梢血管手術(動脈瘤、動脈硬化症、血栓症、静脈瘤、人工透析に必要なシャント作成)など、広範な心臓・血管領域手術を一手に行っています。救急疾患には365日24時間体制で対応しています。

当科では手術時間短縮、手術低侵襲化に積極的に取り組んでおります。

2022年より導入の、心房細動症例に対する鏡視下での左心耳閉鎖術、肺静脈隔離術については手術難易度の高さから中四国で施行可能な病院は5施設ありません。心房細動合併症の一つとして脳梗塞がありますが、約95%以上が左心耳を起源とすることが分かっています。左心耳を閉鎖し、脳梗塞を予防することを主眼とする本手術は通算50症例を超えました。心房細動加療としての抗凝固療法は出血のリスクを伴いますが、本術式施行後には中止できるため、メリットは大きいと考えます。

胸部・腹部大動脈瘤の手術は、引き続き切開をしない穿刺法でのカテーテル治療(ステントグラフト内挿術)と開胸、開腹手術の適切な方法を症例ごとに検討し、より良い手技を行っています。2025年より既存ステントグラフトを加工し、より患者さまの解剖に合わせた治療を提供できる先進治療を開始しております。人工血管、ステントグラフト一体型のデバイス使用も可能になっており、ハイブリッド手術を含め、よりご高齢の患者さまや状態の悪い方でも対応できるよう、テーラーメイド化した治療を目指しています。

弁膜症に対しては内視鏡補助下での右肋間小開胸手術を確立しており、患者さまの状態や解剖によりアプローチを選択しています。僧帽弁、三尖弁では形成術を第一選択としています。大動脈弁では手術時間低減が可能となるスーチャレス弁も使用しており、また若年者の場合には形成術も施行しています。

狭心症、心筋梗塞に対する冠動脈バイパスでは心拍動下手術を第一選択とし、左小開胸での低侵襲手術を開始予定です。

下肢静脈瘤に対する治療は、引き続き血管内治療を第1選択とし、基本的に外来診療で行っております。従来行っていた高周波焼灼術に加え、より痛みの少ない硬化療法を取り入れ、順調に症例を重ねております。

感染を含めた急性弁膜症や冠動脈緊急症、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、外傷性大動脈損傷に対する緊急手術も、安全性確保に努めながら行ってまいります。

〈対象疾患〉

成人 心 疾 患：虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、弁膜症、不整脈疾患、心臓腫瘍

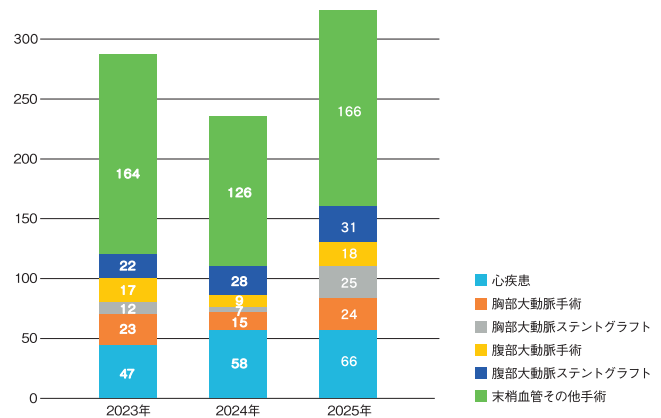
大 動 脈 疾 患：大動脈瘤、大動脈解離、大動脈狭窄

末梢動脈疾患：下肢閉塞性動脈硬化症、末梢動脈瘤、血管外傷、急性動脈閉塞

静 脈 疾 患：下肢静脈瘤

慢性腎臓病：内シャント作製、動脈表在化、長期留置カテーテル、血管形成

〈診療実績〉



〈地域医療機関の先生へ一言〉

2025年は多くの地域の先生と面会する機会をいただき、各先生方、誠にありがとうございました。

基幹施設を維持する為の厳しい条件をまず1年目、達成することができており、2017年以降最多の手術症例数となりました。この場で感謝申し上げます。

2026年4月より、専門医3人体制となりました。より強固な診療体制を築き、これまでお断りせざるを得なかった緊急疾患への対応も改善できるよう調整してまいります。複数科に跨る様な合併症をもつ患者さまであっても、対応が可能なことは当院の大きな強みと考えております。

低侵襲治療を含めた適切な術式選択や高齢者でも耐えうる心血管手術を模索し、【市民病院の心外に任せればなんとかなる】と思っていただけるよう、治療を継続してまいります。

〈スタッフ紹介〉



中央手術部次長
末澤 孝徳



統括科長
林田 智博



科長
吉田 賢司



医師
藤本 遼

小児外科

Pediatric Surgery

診療の特色

小児外科は、新生児から15歳程度までの外科的な治療を行う診療科です。こどもの内科が小児科であるのに対して、こどもの外科が小児外科と言えます。消化器(胃腸や肝臓など)、呼吸器(気管や肺など)、泌尿器(腎臓や膀胱、精巣など)のほか、頸部・胸部・腹部のさまざまな病気が対象です。ただし、心臓血管外科や脳神経外科、整形外科の範囲は対象外です。

よく言われる言葉ですが、こどもは大人のミニチュアではありません。大人と比べて体が小さいだけでなく、解剖・生理の違いに注意した治療が必要です。特に新生児・未熟児への手術では、繊細な手技が必要です。大人と違う病気も多く、大人の外科とは違う手術が必要です。また、こどもの成長や発達にも配慮が必要です。手術の体への負担を小さくすることや、傷跡をできるだけ小さくすることなど心理面の配慮を行っています。

2020年4月の小児外科開設以降、整備を進めてまいりました。手術・治療方法の改良を進め、こどもとご家族に優しい安全かつ良質な医療を提供してまいります。

〈対象疾患〉

新生児から15歳程度まで

主な疾患

頸 部：正中頸嚢胞、側頸瘻、梨状窩瘻

胸 部：先天性嚢胞性肺疾患(CPAM等)、漏斗胸、横隔膜ヘルニア、先天性食道閉鎖症

腹 部：胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、先天性腸閉鎖症、壊死性腸炎、腸回転異常症、急性虫垂炎、ヒルシュスプルング病、鎖肛(直腸肛門奇形)、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、臍ヘルニア、臍帯ヘルニア、鼠径ヘルニア、陰嚢・精索水腫、Nuck水腫、腸重積、臍腸管遺残、慢性便秘、肛門周囲膿瘍

泌尿器：水腎症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、停留精巣、精巣捻転、包茎

卵 巣：卵巣嚢胞

腫 瘍：奇形腫(仙尾部、卵巣、精巣等)

他：外傷、リンパ管奇形(リンパ管腫)、重症心身障がい児に対する誤嚥防止術



〈診療実績〉

	2023年度	2024年度	2025年度
入院総数	49	79	71
新生児	1	1	0
手術総数	44	71	65
定期	35	57	47
緊急	9	14	18
新生児	1	1	0

〈地域医療機関の先生へ一言〉

平素より大変お世話になっております。昨年は腹腔鏡下手術等、低侵襲手術の適応を一昨年同様進めてまいりました。当院は2026年度、NICUが本格的に稼働を開始する予定であるため、新生児医療へ今まで以上に貢献したいと考えております。良質な医療を提供するよう努めますので、何でもお気軽にご相談ください。急患には随時対応いたします。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

〈スタッフ紹介〉



科長
尾山 貴徳

乳腺甲状腺外科 Breast and Thyroid Surgery

診療の特色

2026年4月現在、乳腺内分泌外科は常勤医4名（乳腺指導医2名、乳腺専門医4名、内分泌・甲状腺外科専門医1名（重複あり））、乳がん看護認定看護師2名を擁し、乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患に幅広く対応しています。久保を乳腺甲状腺外科の統括として、専門性の高いチーム医療を実践し、質の高い医療を提供する体制を整えております。

当科では、乳がん初期治療において、標準治療に基づきながらも最新の知見を取り入れ、個別化治療を積極的に行っています。進行・再発乳がんに対しても、多数の治験や臨床試験に参加し、通常診療では困難な治療選択肢も提供しています。薬物療法だけでなく、局所治療についても、整容性に優れたRFA（ラジオ波焼灼術）を導入し、山下医師を中心に運用を開始しています。高齢や併存疾患のある患者さんに対しても、低侵襲な治療選択肢になっており、今後の地域医療における役割拡大が期待されます。

甲状腺・副甲状腺疾患においても、良性疾患から悪性腫瘍まで一貫した治療を提供しており、進行・再発甲状腺がんに対しては分子標的薬やゲノム医療も積極的に活用しています。特に難治性の未分化がんにも診療対応しており、広域から患者さんの紹介を受ける中核的存在です。

われわれのモットーは、①どのような病状の患者さんでも受け入れること、②がんセンターや大学病院と同水準の医療を地域で実現することです。併存症のある患者さんに対しても、院内の多診療科と連携し、包括的な治療体制を整えています。

また、当科は学術活動にも力を入れており、現在、久保が日本乳癌学会「乳癌診療ガイドライン2026年改訂版」の執筆委員に選出されており、日本乳癌学会の評議員として、こうした知見を地域に還元することで、地域全体の医療レベル向上にも貢献していきたいと考えております。

〈対象疾患〉

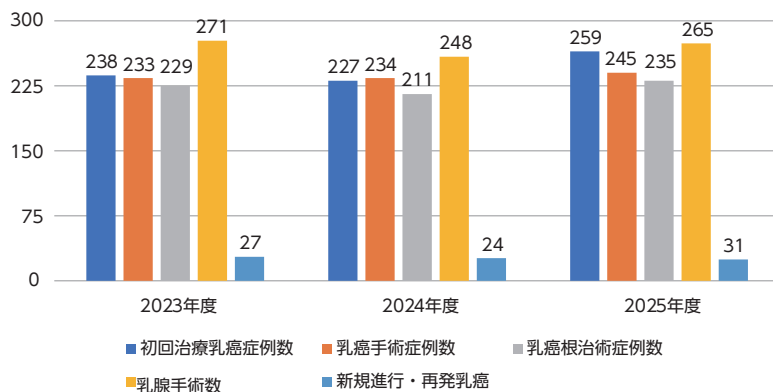
乳腺疾患全般（特に乳がん、葉状腫瘍）

甲状腺疾患全般（特に甲状腺がん、バセドウ病、橋本病）

副甲状腺疾患全般（特に原発性副甲状腺機能亢進症）

〈診療実績〉

症例数の推移



〈地域医療機関の先生へ一言〉

当科では、地域の医療機関の先生方と密接に連携を図りながら、患者さんにとって最善の医療を届けることを最重要と考えております。紹介・逆紹介を通じて、今後も地域医療の一翼を担うべく努めてまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

〈スタッフ紹介〉



副院長、
教育研修部長、
安全管理室長
池田 雅彦



統括科長、
医療情報・DX推進室長
久保 慎一郎



科長
山下 哲正



科長
吉川 公見子

泌尿器科 Urology

診療の特色

当院は、2015年に広島県東部でいち早くロボット支援手術システムを導入した地域中核病院です。これまでに泌尿器科を中心として、病院全体で1,000例を超えるロボット支援手術を実施しており、同地域における治療成績・安全性において最も豊富な治療実績を有する医療機関です。当科は地域の最終砦として泌尿器科領域の幅広い疾患に対応するとともに、地域がん診療連携拠点病院として尿路悪性腫瘍に対する高度なロボット支援手術を中心とした治療を提供しています。薬物療法や放射線療法についても、最新の国内外ガイドラインに準拠し、エビデンスに基づいた最適な治療を実践しています。

〈対象疾患〉

泌尿器癌全般：当院はがんゲノム医療連携病院です。標準治療に治療抵抗性に至った場合には遺伝子パネル検査を用いて、最適な治療案を行えます。

前立腺がん：最新機器であるTrinity® MRI融合生検装置を2023年末より導入しています。生検時診断精度の向上に寄与しています（診断陽性率85%）。手術、薬物療法（内分泌療法、抗がん化学療法）、放射線療法（外照射IMRT）などの治療が選択可能です。2015年3月からロボット支援前立腺全摘術を開始し、術中合併症の減少、術後疼痛の改善、入院期間の短縮等の患者に優しい外科治療を目指します（すでに開始後10年経過し、通算で1000例以上の実績を持ちます）。根治的放射線治療については放射線治療科と連携、2022年4月よりスパーサーを併用することで治療期間が短く、有害事象の少ないIMRTの寡分割照射60Gy/20fxを実施しています。

腎細胞がん：小さな腎腫瘍に対し2016年11月からロボット支援腎部分切除術を開始、腎温存手術を積極的に行っています。また2022年4月よりは腎摘除術がロボット支援手術の保険収載が認められ、当院でも適応症例に対してはロボット支援腎摘除術を開始しています。転移を有する腎細胞がんに対しては分子標的薬のみならず、免疫チェックポイント阻害剤併用療法が治療選択肢として加わり、治療成績の改善に寄与しています。

膀胱がん：筋層非浸潤がんは再発が多いことで知られています。当科はアラグリオ®による補助診断を用いた経尿道的手術を実施、膀胱一塊切除術と併用することで完全切除を目指します。筋層浸潤がんに対して手術・放射線・化学療法の集学的治療を行っています。2019年からはロボット支援膀胱全摘術および完全体腔内尿路再建を導入、更なる低侵襲化を目指しています。

女性泌尿器領域：2024年度から骨盤臓器脱について週2回専門外来を開設しました。同疾患に対する外科的治療の適否について専門知識を有する女性医師が診察します。同年にはロボット支援仙骨靭帯固定術を導入し、より整容性と治療成績に配慮した低侵襲治療を提供しています。尿失禁、過活動膀胱および間質性膀胱炎に関しては近隣病院と連携・対応します。

精巣がん・陰茎がん：国内外最新ガイドラインに準拠した治療を推奨しています。

尿路外傷：外傷後の尿路再建を積極的に行っています。

尿路感染症：結石性腎盂腎炎などの重症尿路感染症に対し、救命救急センターと連携して対応します。

尿路結石：結石疼痛発作に関する初期対応は可能ですが、結石破碎治療は近隣の連携病院に紹介させていただく場合があります。

小児泌尿器領域：小児・新生児科、小児外科と連携しながら対応します。

その他：泌尿器科エマーゲンシー（精巣捻転、陰茎折症など）積極的に受け入れています。2020年からロボット支援腎盂形成術を導入しました。良性疾患である腎盂尿管移行部狭窄症に対する術式で治療成績・整容性共に優れた術式です。

〈診療実績〉

2025年の総手術件数は461（前年472）件でした。ロボット支援手術の総件数は142例（前立腺全摘術：66例、腎部分切除術：26例、膀胱全摘術：14例、腎摘術：9例、腎尿管全摘術：12例、仙骨靭帯固定術：19例）

泌尿器科Emergencyは会陰部デブリドマンが2件、精巣捻転解除術が4件でした。

〈地域医療機関の先生へ一言〉

2026年3月の、黒瀬恭平先生退任に伴い、高本が泌尿器科統括科長に就任しました。また、4月よりは当院初期研修修了の大西俊輝先生が新たに泌尿器科医として着任されました。現在は常勤医6名・非常勤医2名（笠岡市民 安藤航先生、セントラル病院 有地直子先生）の体制で診療にあたっています。

日頃より、前立腺がん術後連携バスや紹介・逆紹介におけるトリアージなど、当科の取り組みにご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今後も福山市医師会ならびに地域の諸先生方と緊密に連携し、高度かつ迅速な医療提供を通じて地域医療の向上に貢献してまいります。

〈スタッフ紹介〉



統括科長
高本 篤



科長
村田 匡



科長
三宅 修司



医長
藤井 孝法



医師
桑田 浩平



医師
大西 俊輝

産婦人科 Obstetrics and Gynecology

診療の特色

産婦人科は産科と婦人科、女性ヘルスケア、生殖内分泌の4部門に分けられます。

産科に関しては、現在妊娠33週以降の分娩より対応しており、合併症をお持ちの妊婦さんは関連各科と協力して診療しています。出生前診断としてNIPT、羊水検査を実施し、経産婦に限り希望者に計画無痛分娩を行っています。救命救急科と放射線診断・放射線治療科の協力を得て、産後危機的出血などの救急搬送にも対応いたします。

婦人科悪性腫瘍に関しては、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌に対して悪性腫瘍手術、化学療法、放射線療法を取り扱い、悪性腫瘍手術は開腹手術、腹腔鏡下手術で対応しています。日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会へ婦人科腫瘍登録をしています。子宮筋腫、卵巣腫瘍、骨盤臓器脱などの婦人科良性疾病に関しては、腫瘍の大きさや手術歴などを考慮し、腹腔鏡手術、開腹手術、腔式手術の選択が可能です。また2026年度後半よりダヴィンチによる子宮全摘を導入予定です。

更年期症状を含むさまざまな女性ヘルスケアに対応致します。また今年度より妊娠健康相談に関する外来を新たに設け、疾患の有無に関わらず、妊娠を希望する女性に対して健康管理等の相談窓口として運用予定です。生殖内分泌の特徴である不妊症治療に関しては取り扱っていないため、ご希望の患者さまには近隣の専門施設をご紹介します。

〈対象疾患〉

- 産科領域(2026年8月より妊娠30週以降の症例が対象となります)
- 産後危機的出血を含む救急疾患
- 婦人科良性疾病
- 婦人科悪性腫瘍
- 女性ヘルスケア

〈診療実績〉

	2023年度	2024年度	2025年度
手術総数	325	330	373
子宮全摘	43	37	40
円錐切除	25	24	45
骨盤臓器脱	9	19	15
悪性腫瘍手術	48	41	44
腹腔鏡下手術	31	25	40
人工妊娠中絶	8	8	11
分娩総数	204	241	264
うち帝王切開	94	103	110
救急搬送受け入れ	38	56	74
うち産後症例	10	14	15

〈地域医療機関の先生へ一言〉

産婦人科常勤医6名体制で診療を行っております。常勤医は日本産科婦人科学会専門医・指導医5名、サブスペシャリティとして周産期専門医(母体・胎児)3名、婦人科腫瘍専門医1名、臨床遺伝専門医1名、女性ヘルスケア専門医1名、腹腔鏡技術認定医1名、ダヴィンチ資格1名、胎児心エコー認定医1名、母体保護法指定医4名で、さまざまな産婦人科領域の疾患に対して高い専門性を持ち診療を行っております。2026年8月より新本館3階に周産期母子医療センターが開設し、NICU、GCU、MFICUが稼働するため、周産期医療体制がより充実します。また、鏡視下手術による悪性腫瘍手術や、ダヴィンチによる子宮全摘等、婦人科手術も低侵襲手術を積極的に導入する流れに移行しております。

合併症をお持ちの患者さんや重症な患者さんの割合が多いのが当院の特徴です。今後も最大限の配慮と注意で、安全な医療を心掛けます。

〈スタッフ紹介〉



中央手術部次長、
科長
青江 尚志



科長
高原 悦子



科長
兼森 美帆



統括科長
早田 桂



科長
春間 朋子



医師
富岡 領太

耳鼻咽喉・頭頸部外科 Otolaryngology- Head and Neck Surgery

診療の特色

常勤医4名と非常勤医師1名とで診療を行っています。

外来は水曜日以外の平日週4日で、手術日は月・水・金の週3日となっています。

頸部手術では耳下腺や顎下腺など唾液腺腫瘍手術が最も多く、悪性腫瘍に関しては毎週火曜日に頭頸部悪性腫瘍カンサーボードを行い、治療方針を相談のうえ決定しています。

他科他部署とも連携を取りながら複雑な背景をもつ症例に対応できるよう努めています。嚥下障害に関してはリハビリテーション科とともに嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を適宜行い、嚥下機能評価を行っています。

〈対象疾患〉

- 中耳炎、副鼻腔炎など耳鼻咽喉科領域の感染症
- 頭頸部腫瘍(良性・悪性)
- 扁桃周囲膿瘍・喉頭浮腫・鼻出血などの救急疾患

〈診療実績〉 手術件数 約390人(2025年度)

〈地域医療機関の先生へ一言〉

耳鼻咽喉科領域の治療にできるだけ幅広く対応できるよう心掛けています。

術前術後の病病連携、病診連携を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

日本耳鼻咽喉科学会が日本耳鼻咽喉科頭頸部外科に名称変更したことに伴い当科も耳鼻咽喉科から耳鼻咽喉科頭頸部外科に名称変更しております。

〈スタッフ紹介〉



中央手術部次長、
統括科長
山下 安彦



科長
野田 洋平



科長
平井 悠



医師
森脇 悠利

皮膚科 Dermatology

診療の特色

2003年4月から常勤化し、1名体制で診療を行っています。2026年4月に常勤医が交代しました。
対象疾患は、皮膚科一般(湿疹・皮膚炎群、細菌・真菌・ウイルスなどの感染症、良性および悪性の皮膚腫瘍など)で幅広く診療にあたっています。必要に応じて他科紹介や大学病院への紹介を行い、最善の治療が提供できるよう連携しています。
乾癬や白斑などの治療では、全身型紫外線治療器に加え、2017年にハンディタイプの紫外線治療器(ターゲット型エキシマライト)を導入し、症状にあわせてより細かく効果的に照射することが可能になりました。日本皮膚科学会による生物学的製剤使用承認施設で、乾癬・アトピー性皮膚炎の生物学的製剤を取り扱っています。また、内服薬でコントロール不良の難治性蕁麻疹に対して、オマリズマブ(ゾレア®)による治療も行い、治療効果に満足いただいています。



ターゲット型エキシマライト

〈対象疾患〉

皮膚科一般(湿疹・皮膚炎群、細菌・真菌・ウイルスなどの感染症、良性および悪性の皮膚腫瘍など)
主な検査: 皮膚生検(病理組織検査)、細菌・真菌検査、皮膚アレルギー検査(パッチテスト: 持参物、金属アレルギーセット)、光照射試験、ダーモスコピー、皮膚超音波検査

〈地域医療機関の先生へ一言〉

諸先生方と積極的に協力・連携を図りながら診療を行っています。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

〈スタッフ紹介〉



科長
梅田 善康

〈診療実績〉

外来延べ患者数は4,458人で、前年度より418人減少した。入院実患者数は62人で、前年度より5人増加した。手術件数は97件で、前年度より19件減少した。

	2023年度	2024年度	2025年度
外来延べ患者数(人)	4,637	4,876	4,458
外来実患者数(人)	3,056	3,241	3,072
入院延べ患者数(人)	374	300	381
入院実患者数(人)	54	57	62
光線療法(人)	22	26	37
生物学的製剤(人)	18	42	10
病理組織検査(手術症例含む)(件)	208	193	169
手術(件)	136	110	97
皮膚切開術(件)	9	10	8

眼科 Ophthalmology

診療の特色

2026年4月現在、4名体制で診療を行っています。白内障・緑内障・糖尿病網膜症などの一般疾患をはじめ、網膜剥離、急性緑内障発作などの救急疾患まで幅広く対応しています。外来診療は平日週5日、手術は月・水・金の週3日行っています。眼科手術は局所麻酔が多いですが、認知症や閉所恐怖症等必要に応じて全身麻酔でも対応いたします。

〈対象疾患〉

角膜・前眼部疾患: 主に薬物治療を行っています。病状に応じて入院加療も行います。
白内障: 難易度の高い症例にも対応しています。
緑内障: 薬物治療や、病状に応じて線維柱帯切開術・線維柱帯切除術・チューブシャント手術などの手術を行っています。
網膜硝子体疾患: 加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫、近視性脈絡膜新生血管に対する血管新生阻害薬硝子体注射、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、硝子体出血などに対する手術加療を行っています。
ぶどう膜炎: 薬物治療を中心に行っています。必要に応じて当院膠原病内科と連携して診療にあたります。

〈診療実績〉

手術件数

	白内障手術	緑内障手術	網膜硝子体手術	合計(その他の手術を含む)
2023年度	813	100	302	1,276
2024年度	688	82	208	1,050
2025年度	681	70	172	951

〈地域医療機関の先生へ一言〉

いつも貴重な患者さまをご紹介いただきありがとうございます。総合病院の眼科という特性上、特に緊急疾患や入院加療が必要な疾患への対応に今後も継続して力を入れてまいります。よろしくお願い申し上げます。

〈スタッフ紹介〉



統括科長
野田 拓志



医長
小野 竜輝



医長
南川 駿



医師
垣野 義人

麻酔科・がんペインクリニック

Anesthesiology and Oncological Pain Medicine

診療の特色

麻酔科・がんペインクリニックの業務は、手術の麻酔管理、集中治療室管理、がん性疼痛に特化したペインクリニックを三本柱としています。

麻酔管理に関しては、10室の手術室、IVR-CT室、透視室、内視鏡センターなどで行われる全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔（脊髄麻酔）、硬膜外麻酔の症例全例と、呼吸・循環管理の必要な一部の局所麻酔症例の管理を担当しています。夜間・休日は、常時1～2名の勤務、当直あるいは待機医師を配して、多発外傷や急性腹症、心臓血管外科症例などの緊急手術に迅速に対応できる体制を取っています。より複雑な長時間の手術症例が増えており、救命救急センターを併設した3次救急病院、地域がん診療連携拠点病院としての役割が強まっていると感じています。手術を必要とするより多くの患者さんのニーズに応えていきたいと思っています。

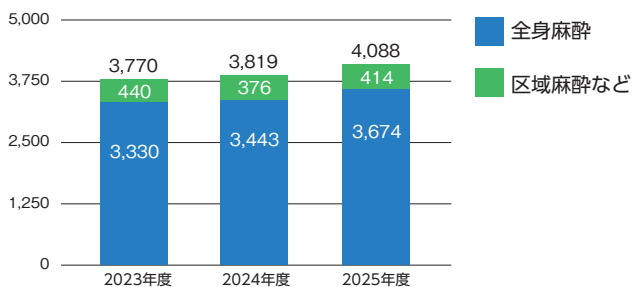
従来の麻酔科術前外来（平日午前毎日）に加え、火曜日、木曜日、金曜日の午前中に3人ずつ周術期管理外来としての診療をしています。周術期管理外来は、術前から術後にかけての一貫した周術期管理を目的としています。現在は、開心術、肺葉切除、食道外科、肝胆膵領域の大手術、開頭術、頭頸部の大手術などの周術期合併症のリスクの特に大きい手術を受けられる患者さんを対象としています。1人の患者さんに約2時間かけて歯科・口腔外科医師、薬剤師、周術期管理看護師、当科医師が、系統的に術前の診察、評価、説明と口腔衛生のための治療を行っています。歯科・口腔外科の診療が行われることが意外に感じられるかもしれません。禁煙が呼吸器疾患をはじめさまざまな病気のリスクを減らすとともに創部感染を減らすことは知られるようになってきましたが、良好な口腔衛生は禁煙に劣らず肺炎などの術後の合併症を減らすのにとても大切です。手術前の周術期管理外来を含む麻酔科外来での診療は、手術を受けられる患者さんの安全と安心の向上に役立つものと考えています。

手術室に隣接してICU8床、HCU4床からなる集中治療室が設けられ、その管理を担当しています。集中治療科専門医を含む当科の医師が24時間常駐し、主に院内発生の中重症症例並びに大手術の術後症例に対して、人工呼吸や心肺補助、血液浄化法を含む先進の集中治療を提供しています。

がんペインクリニックは、薬物療法など従来の手法で対処が不十分な比較的高いがんの痛みに対して、主に当科の得意とする神経ブロックを用いて効果的な緩和を目指すことを目的としています。がん緩和医療は、終末期医療という意味ではなく、がんを抱えた患者さんのあらゆる「苦痛」を和らげることです。このうち「痛み」を和らげるという緩和医療の一翼を担うだけでなく、ペインクリニックの専門研修施設としての責務も果たしてまいります。なおスタッフ全員が麻酔科との兼任であり、手術室での麻酔業務との調整が必要ですので、受診にあたっては完全予約制とさせていただきます。

〈診療実績〉

2023-2025年度 麻酔科管理症例数



〈スタッフ紹介〉



中央手術部長、
統括科長
日高 秀邦



科長
安保 佳苗



集中治療室長(集中治療室
専従)、臨床工学科長、科長
石井 賢造



科長
荒井 麻耶



科長
小坂 真子



科長
竹中 志穂



科長
矢島 悠太



科長
永島 聡美



科長
日野 佳恵



科長
大村 浩之



科長
島田 侑弥



医師
窪木 福太郎



医師
藤村 和臣



医師
織田 みちる

リハビリテーション科

Department of Rehabilitation Medicine

診療の特色

これまでの伝統的な医学では、病気を治癒させること、そしてできるだけ延命を図ることが目標でした。もちろん、これは重要なことです。しかし、忘れられていた大切なことがあります。それは患者さんのQOLです（QOLはQuality of Lifeの略で、生活の質、命の質などと訳されます）。

どんな先端治療を行っても治らない病気がたくさんあります。病気が治らないとき、そして障がいが残るとき、従来は「医学の限界」と考える傾向がありました。しかし、それは違います。障がいに対するリハビリテーション治療を行うことによって、障がいを最小限にでき、障がいが残っても最大限のQOLを達成することができるはずです。

このようにQOLを重視しながら障がいを治癒する医学がリハビリテーション医学です。さまざまな疾患・外傷・病態により生じた機能障がいを回復し、残存した障がいを克服しながら活動を育む医学です。

〈対象疾患〉

診療報酬上のリハビリテーション医療は、基本的動作能力の回復等を目的とした理学療法、応用的動作能力や社会的適応能力の回復等を目的とした作業療法、言語聴覚能力の回復等を目的とした言語聴覚療法により構成され、いずれも実用的な日常生活における諸活動の実現を目的として行われるものです。

2026年4月現在、理学療法士19名・作業療法士10名・言語聴覚士3名で急性期リハビリテーションに取り組んでいます。なお、リハビリテーション科の診療は院内各科からの紹介のみ対応しています。外来リハビリテーションは原則行っていません。

〈診療実績〉

2024年度延べ人数

・脳血管障害、脳外傷	953人	・外傷性脊髄損傷	85人	・内部障害	1,616人
・運動器疾患、外傷	1,861人	・神経筋疾患	28人	・その他	4,744人

2025年度延べ人数

・脳血管障害、脳外傷	976人	・外傷性脊髄損傷	49人	・内部障害	1,476人
・運動器疾患、外傷	1,888人	・神経筋疾患	32人	・その他	4,861人

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当院は急性期リハビリテーションを担っており、回復期・生活期への途切れのないリハビリテーションを提供できるように、地域医療連携を推進していきます。

〈スタッフ紹介〉



医療技術部長
藤井 俊宏

放射線診断・IVR科

Diagnostic and Interventional Radiology

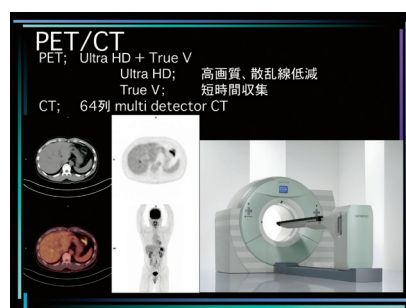
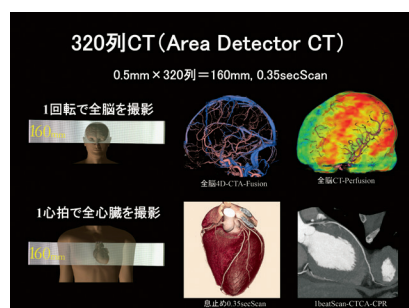
診療の特色

当科には6名の常勤医（4名の放射線診断専門医、2名の放射線科専攻医）が在籍しており、CTやMRI、核医学（PET/CT、RI）を中心とした画像診断と画像下治療（IVR：Interventional Radiology）を通じて集学的治療に貢献しています。当院は「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けており、救命救急センターも併設していることから、画像診断、画像下治療においてもがんや救命救急の症例が大変豊富です。

当科は2011年度より日本医学放射線学会放射線専門医総合修練機関（放射線診断、RI、IVR、放射線治療の全分野）として、また2020年度よりは日本専門医機構の放射線科領域専門研修プログラム基幹施設として認定されており、専攻医、放射線科専門医、診断専門医の養成、修練に適しています。

CTは320列の2台、MRIは3T（テスラ）の2台、核医学はPET/CTの1台、SPECTの2台の体制で、高精細な画像を迅速に提供し、質の高い画像診断を行っています。特に2018年1月より最新鋭の3T-MRI、2019年1月より2台目の320列のCTを導入しており、当院並びに地域のがん診療に貢献しています。

また最新鋭のIVR-CTなどを活用し、安全で正確な画像下治療（IVR）を行っています。主な手技は中心静脈リザーバー留置、CTガイド下ドレナージ、CTガイド下針生検、動脈塞栓術、緊急止血術などです。診療件数実績は備後圏域でも有数でがん診療、救命救急の一翼を担っています。



〈対象疾患〉

画像診断、画像下治療（IVR）

〈診療実績〉

画像診断件数	（単位：件）		
	2023 年度	2024 年度	2025 年度
CT	21,746	22,780	23,905
MRI	6,429	6,390	6,859
PET-CT	1,783	1,860	1,900
RI	1,825	1,699	1,881
他院読影	39	28	37
計	31,822	32,757	32,757

IVR 件数	（単位：件）		
	2023 年度	2024 年度	2025 年度
IVR	505	514	558

〈地域医療機関の先生へ一言〉

患者さんにとって優しく最適であり、検査をご依頼いただく地域の先生方にもご満足いただけるような質の高い画像検査、画像診断、画像下治療を放射線科全体で心掛けております。

何卒よろしくお願いいたします。

〈スタッフ紹介〉



がん診療統括部次長
統括科長
井田 健太郎



科長
兵頭 剛



科長
佐伯 基次



科長
土橋 一代



医師
長田 仁



医師
武川 真也

緩和ケア科 Palliative Care

診療の特色

緩和ケア病棟(PCU)は全室個室で16床を有し、院内・院外の入院緩和ケアを必要とする患者さんを適切なタイミングで円滑に受け入れるように努めています。

PCUでは患者さん・ご家族のQOLの維持・向上を最終目標として、痛みや不安等の苦痛症状の緩和を図りつつ、病棟ボランティアを含む多職種がチームを組み、きめ細やかなケアを提供しています。

精神腫瘍科、リハビリテーション科、放射線治療科などと連携して専門的な症状コントロールを行っています。

PCUへの入院基準は①苦痛症状があり入院緩和ケアが必要ながん患者さんであること②患者さん・ご家族がPCU入院を希望しており、主治医も同意していること③患者さんかご家族のDNARが確認できていること④患者さん・ご家族が病名・病状を理解していることが望ましい、の4点です。

症状コントロールがついた後は患者さん・ご家族のご希望に応じて積極的に在宅調整を行い、自宅や施設への退院を目指します。

在宅では、在宅緩和ケアチームとの連携により、安心・安全な在宅療養の提供を目指します。PCUから在宅調整をして退院された患者さんについては、常にバックアップベッドを準備しており、在宅ケアチームからの要請があればPCU再入院を速やかに調整します。また介護されているご家族の休息のための短期レスパイト入院にもできるだけ対応しています。

〈対象疾患〉 がん全般、透析をしていない終末期の末期腎不全

〈診療実績〉

(単位：人)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023 年度	入院患者数 162	転棟転科	9	7	9	11	11	7	11	5	13	6	6	10	105
		訪問医より	3	1	1	3	2	2	2	3	4	2	2	1	26
		外来より	2	5	1	1	1	0	1	1	3	1	1	1	18
		転院	1	2	2	0	0	0	1	3	0	0	1	3	13
		合計	15	15	13	15	14	9	15	12	20	9	10	15	162
	病棟稼働率 63.8%	死亡退院	13	15	9	11	12	4	12	12	9	7	8	12	124
		在宅退院	2	2	1	2	4	1	1	3	3	4	4	0	27
		転院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4
		転棟	0	1	0	1	2	0	1	1	3	0	0	0	9
		合計	15	18	10	15	18	6	14	16	15	13	12	12	164
2024 年度	入院患者数 151	転棟転科	8	10	9	9	8	5	10	4	10	9	12	5	99
		訪問医より	2	1	3	2	1	2	3	4	1	3	1	3	26
		外来より	1	1	0	3	0	0	1	2	2	0	1	1	12
		転院	1	0	0	0	2	2	2	3	0	2	1	1	14
		合計	12	12	12	14	11	9	16	13	13	14	15	10	151
	病棟稼働率 76.4%	死亡退院	6	8	10	14	10	6	13	7	11	13	7	13	118
		在宅退院	3	2	3	0	1	4	2	4	2	3	2	1	27
		転院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
		転棟	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	5
		合計	9	11	13	15	11	10	16	11	14	17	11	14	152
2025 年度	入院患者数 182	転棟転科	7	12	9	10	9	11	13	8	10	9	9	10	117
		訪問医より	1	2	1	5	4	0	1	2	2	2	0	1	21
		外来より	1	3	2	0	2	3	0	2	0	4	0	2	19
		転院	4	2	3	2	1	2	1	1	3	1	3	2	25
		合計	13	19	15	17	16	16	15	13	15	16	12	15	182
	病棟稼働率 69.9%	死亡退院	10	12	12	16	17	13	10	13	10	10	14	10	147
		在宅退院	3	1	3	0	4	1	1	2	2	3	2	2	24
		転院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		転棟	0	0	1	0	0	1	1	1	0	2	0	1	7
		合計	13	13	16	17	21	15	12	16	12	15	16	14	180

〈地域医療機関の先生へ一言〉

◎院外からのご紹介は地域医療連携課を窓口にご予約のうえ、緩和ケア科外来を受診していただき、その後は適切なタイミングでPCU入院を調整します。

◎できるだけ予後1か月以上が見込める時期にご紹介ください。患者さん・ご家族が在宅療養を希望されている場合には、介護保険申請や訪問診療・看護などの在宅調整も当科紹介と並行して行ってください。

◎外来併診中の急変や緊急入院は一旦紹介元で対応していただき、必要に応じて当院PCUへの転院で対応しています。

〈スタッフ紹介〉



がん診療統括部次長、科長、
緩和ケアセンター長
岡崎 正典



医師
浦野 真一

放射線治療科 Radiation Oncology

診療の特色

当院の放射線治療室は西館地下1階に位置しています。待合室は南側の半地下構造を活かしたガラス張りの明るく開放的な空間となっており、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに配慮しています。

当科では、Varian社製リニアック (TrueBeam STx) を用いて、位置照合用CTやX線透視装置 (ExacTrac) を併用することで、高精度かつ再現性の高い画像誘導放射線治療 (IGRT) を提供しています。

また、従来の3次元的な照射法から強度変調放射線治療 (IMRT: VMATを含む)、定位放射線治療 (SRT) まで幅広い照射技術を用いた治療を行っています。根治治療から緩和照射まで、患者さんの病態に応じた柔軟な治療選択が可能であり、地域の基幹病院としてさまざまな臨床状況に対応できる体制を整えています。

脳・肺・肝・骨などの病変やオリゴ転移に対する定位放射線治療 (SRT)、ならびに頭頸部癌や前立腺癌などに対する強度変調放射線治療 (IMRT) を積極的に行っており、近年はこれらの適応拡大にも取り組んでいます。

2026年度は、婦人科腫瘍に対する腔内照射および組織内照射 (RALS) の導入を予定しており、子宮頸癌をはじめとした婦人科腫瘍に対する放射線治療の充実を図ります。これにより、外照射と腔内照射を組み合わせた標準治療を当院で完結できる体制となる予定であり、該当する患者さんについても対応可能ですので、ご相談いただければ幸いです。

放射線治療は一定期間継続する治療であるため、安心して治療を受けていただける環境整備に努めるとともに、地域における質の高い放射線治療の提供に取り組んでいます。

〈対象疾患〉

がん全般 (頭頸部癌、肺癌、乳癌、前立腺癌、消化器癌、婦人科腫瘍、転移性腫瘍など)
良性疾患 (ケロイド、甲状腺眼症など)

〈診療実績〉

放射線治療件数		(単位: 人)		
	2023年度	2024年度	2025年度	
放射線治療部門の新規患者数	427	412	482	
放射線治療患者実人数 (新患+再患)	512	498	588	
原発巣別新規患者数		(単位: 人)		
1) 脳・脊髄	4	2	3	
2) 頭頸部 (甲状腺を含む)	38	34	47	
3) 食道	23	18	15	
4) 肺・気管・縦隔	61	52	79	
(うち肺)	58	48	75	
5) 乳腺	129	142	151	
(うち温存)	69	82	100	
6) 肝・胆・膵	36	34	33	
7) 胃・小腸・結腸・直腸	32	35	50	
8) 婦人科	4	2	7	
9) 泌尿器科	66	65	56	
(うち前立腺)	55	50	36	
10) 造血器リンパ系	25	16	22	
11) 皮膚・骨・軟部	4	5	5	
12) その他 (悪性)	1	4	2	
13) 良性腫瘍	4	3	12	
転移巣別治療患者数		(単位: 人)		
脳転移	17	21	21	
骨転移	107	103	126	
高精度治療患者数 (新患+再患)		(単位: 人)		
脳定位照射	18	20	23	
肺定位照射	17	14	21	
肝定位照射	10	9	13	
骨定位照射	7	14	9	
その他定位照射	1	11	5	
小計 (定位照射)	53	68	71	
強度変調放射線治療 (IMRT)				
脳	0	2	2	
頸部	31	28	32	
肺	14	12	23	
腹部	19	8	19	
骨盤 (前立腺除く)	7	21	26	
前立腺	33	33	29	
その他	6	15	20	
小計 (IMRT)	110	119	151	
その他特殊治療		(単位: 人)		
全身照射	0	0	0	
術中照射	0	0	0	

〈スタッフ紹介〉



科長
田邊 新



医師
小林 満



放射線治療装置 TrueBeam STx

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当科では、「患者さんに優しい放射線治療」を基本方針として、安全かつ質の高い放射線治療の提供に努めています。医師、診療放射線技師、看護師、事務職が連携し、患者さんが安心して治療を受けられる体制を整えています。

根治治療から緩和照射まで幅広く対応しており、定位放射線治療や強度変調放射線治療 (IMRT) を含む高精度放射線治療にも積極的に取り組んでいます。また、2026年度は婦人科腫瘍に対する腔内照射 (RALS) の導入を予定しており、外照射と組み合わせた標準治療を当院で完結できる体制を整備していきます。

放射線治療の適応に悩まれる症例や、他の治療が困難な症例についても、可能な限り対応させていただきます。短期間の緩和照射なども含め、患者さんのQOL向上に寄与できる治療を心がけています。

放射線治療は、田邊・小林の2名の医師を中心に診療にあたっております。放射線治療の適応や治療方針については、まずはお気軽にご相談ください。お電話でものご相談にも対応しております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

腫瘍内科 Medical Oncology



診療の特色

腫瘍内科(medical oncology)では、がんと診断された患者さまの「がん薬物療法」を専門に担当しています。治療方針については内科・外科・放射線治療科・放射線診断科・腫瘍内科・緩和ケア科などを中心に合同カンファレンス(カンサーボード)を定期的に行っており、個々の患者さまに最善と考えられる治療を検討できる体制です。

各種臓器のがん(いわゆる固形がんと呼ばれ血液腫瘍以外)および原発不明がん、GISTや一部の軟部肉腫を対象として、生活を維持した安全で効果的な治療を目指しています。各種治療薬の長所・短所・副作用などの特徴を十分に知った上で予防的な対応も含めて十分な支持療法を併用して治療にあたることが重要と考えています。

治療薬(抗がん剤・分子標的薬・ホルモン療法・免疫チェックポイント阻害剤)・治療方法は進歩を続けており、各種のがんにおいて遺伝子検査に基づく治療薬選択が行われており、免疫チェックポイント阻害剤は現在では複数のがんにおいて標準治療の中心になりました。さらに新しいタイプの薬剤としてADC(抗体薬物複合体)や二重特異性抗体を用いた治療も増えてきています。一方、これまで経験されなかったような有害事象(免疫関連有害事象、サイトカイン放出症候群など)もみられるため十分な注意が必要です。新しい情報を適切に判断して標準治療に取り入れていくことが必要であり、腫瘍内科は院内におけるがん薬物療法の実施体制づくりと運営にあたっています。

腫瘍内科はがん薬物療法専門医・指導医2名で診療を担当しています。当院においては各診療科の専門性と状況に応じて、腫瘍内科にて化学療法を行うか、あるいは各科での化学療法に協力する連携体制をとっています。

がん薬物療法は当院でも多くの方が外来化学療法センターにて通院で治療を受けられています。在宅療養あるいは仕事を継続されながら、治療をできるだけ安全にしっかり受けていただくために、積極的に各診療科、緩和ケア部門、精神腫瘍科、臨床心理師、がん看護外来、がん相談部門などと協力して患者さまの身体的・精神的な苦痛の緩和を目指しています。

〈対象疾患〉

消化管がん(胃・大腸・十二指腸・小腸)、膵・胆道がん、神経内分泌腫瘍、GIST、原発不明がんなどを中心に、特に消化器がんを専門領域としています。その他各種臓器のがんについても専門科と連携して治療に対応しています。

〈診療実績〉

2025年度治療疾患：

胃がん、十二指腸・小腸がん、結腸・盲腸・直腸がん、肛門管がん、膵がん、神経内分泌腫瘍(NET)(膵、直腸)、神経内分泌癌(NEC)、胆道がん(肝内胆管、胆管)、原発不明がん、GIST、軟部肉腫(脂肪肉腫、未分化多型肉腫)

〈地域医療機関の先生へ一言〉

がん薬物療法を開始した患者さまについても、引き続きかかりつけ医として基礎疾患の治療継続、および中心静脈ポートからの抜針や対症療法など患者さまの治療と在宅療養の支援をどうかよろしくお願いいたします。

〈スタッフ紹介〉



臨床研究部長、統括科長
遠藤 久之



科長
麻生 光美

病理診断科 Pathology

診療の特色

当院では、多くのがんやその他の病気の患者さんが受診され、病気の診断のために組織や細胞を採取する生検や細胞診が行われています。

病理診断科では、院内で採取された組織生検材料、手術材料、各種の細胞診材料について病理診断業務を行っています。さまざまな診療科から提出される材料について標本を作成して病理診断を行います。がんの種類や進行度などを診断しています。

病理診断に用いられた標本は、いろいろな遺伝子検査やがんゲノム医療にも使われています。近年、がんに対する分子標的薬やゲノム医療が広く行われており、これらの薬剤を使用するための検査への対応も行っています。

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当科では7名の臨床検査技師（細胞検査士5名）が業務しています。

2名の常勤医（病理専門医）が診断に従事しています。さらに2名の非常勤医師が勤務しています。

〈スタッフ紹介〉



医療技術部次長
重西 邦浩



科長
大野 京太郎

歯科口腔外科 Dentistry and Oral Surgery

診療の特色

2026年度の歯科口腔外科は、日本口腔外科学会指導医・専門医・認定医、およびがん治療認定医（歯科口腔外科）の資格を持つ3名の常勤医体制で診療を行います。口腔外科は、咀嚼・嚥下・構音といった重要な機能を維持・回復させる専門分野です。一般の歯科医院では対応が困難な口腔顎顔面外傷や口腔がん、顎骨疾患に対し、2026年8月に開設される新本館の最新設備と総合病院の機能を最大限に活用し、顔面・頸部にわたる広範囲な疾患を診療いたします。

当科では一般歯科開業医との役割分担を明確にしており、むし歯や義歯などの治療は原則としてかかりつけ医にお願いし、高度な口腔外科的疾患に特化した診療を行っています。また、福山市歯科医師会と強固な連携を構築している「周術期口腔機能管理」についても、新病院体制のもとでより一層きめ細やかな管理体制を推進してまいります。

当科の強みである口腔顎顔面骨折や口腔がん治療においては、関連診療科との緊密な連携により、医科歯科連携を軸とした安全で高度な先進医療を提供いたします。なお、当科は日本口腔外科学会、日本口腔内科学会、および日本顎顔面インプラント学会の認定研修施設です。

〈対象疾患〉

口腔腫瘍、嚢胞性疾患（口腔がん、顎嚢胞など）、口腔顎顔面外傷（顎顔面骨折、軟組織損傷など）、顎骨炎症性疾患（MRONJ：薬剤関連顎骨壊死を含む腐骨切除術など）、埋伏智歯などの難抜歯、顎関節疾患・口腔粘膜疾患、歯科インプラント（高度な骨増生を伴う症例を含む）、全身疾患に対する歯科的アプローチおよび周術期口腔機能管理（※当科では矯正治療は行っていません）

〈診療実績〉

中央手術室（全身麻酔下）手術症例：135例、口腔癌切除・再建外科手術：36例、顎骨腫瘍・嚢胞摘出術：29例
口腔顎顔面外傷外科手術：14例、歯・歯槽外科、外歯瘻・腐骨切除術等：54例、上顎洞関連・補綴前外科手術：2例
外来処置件数（埋伏歯抜歯等）：約2,500件

〈地域医療機関の先生へ一言〉

当科は、地域のかかりつけ歯科医からの紹介患者さんを優先して診察する完全紹介予約制（救急を除く）を採用しております。2026年度は新本館の稼働により、さらに充実した診療環境で患者さんをお迎えすることが可能となります。お口のトラブルで専門的な治療が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。地域医療のパートナーとして、誠心誠意診療にあたらせていただきます。

〈スタッフ紹介〉



診療部次長、統括科長
目瀬 浩



科長
山本 大介



医師
大原 早紀子

歯科衛生士：瀬尾 桃子、滝澤 綾香、桑田 桃、村上 瑞姫

臨床検査科

Department of
Clinical Examination

診療の特色

臨床検査には検体検査と生理機能検査があり、それぞれ検査技師により検査の実施と結果報告がなされています。検査技師は迅速で正確な検査結果を返すべく日々努力していますが、検査精度や検査結果などに疑問を持つこともあります。医療現場の思いと齟齬をきたすこともあり、そこにパイプ役として診療部臨床検査科の医師が介入することは医療現場と臨床検査技師の双方にとってメリットのあることです。そのため検査科の関わる委員会での調整にも関与し病院の安心、安全な医療をバックアップしています。

また、検査項目や検査内容は時とともに多岐に分化し、高度化していきます。新しい検査手法や検査技術が次々と生まれている現状に鑑み、その紹介や運用調整などを行っています。

〈院外活動実績〉

広島県感染症医療支援チームメンバー、福山市医師会 喫煙対策委員・感染症対策委員、広島県臨床検査精度管理推進委員、衛生検査所精度管理専門委員、広島県東部感染症調査協議会委員、広島県感染症予防研究調査会委員、日本臨床検査医学会評議員、日本渡航医学会代議員(評議員)

〈地域医療機関の先生へ一言〉

医療技術部臨床検査科は2020年1月24日付でISO 15189の認定(検体検査分野)を取得し、継続しております。渡航ワクチン外来を2018年4月末から開始し、皆さまのおかげをもちまして、8年間で約630名にご利用いただきました。(渡航外来に関する問い合わせは shibyou-travel@fchp.jpまで)

〈スタッフ紹介〉



科長
眞鍋 明広

内視鏡診断・治療センター

Endoscopic Center

小川 恒由 臨床研究部次長、内科統括科長、内視鏡診断・治療センター長



診療の特色・対象疾患・実績

当院は2013年5月に内視鏡診断・治療センターとして体制を整備し、現在は年間7,000～8,000件前後の内視鏡検査・治療を実施しています。健診や人間ドックの内視鏡検査を行っていない当センターとしては、精密診断および治療内視鏡に重点を置いた体制となっています。消化器・呼吸器の悪性・良性疾患の精密診断と治療、消化管出血や胆管結石、胆管炎などに対する24時間体制の緊急内視鏡対応、さらに他施設で対応困難な症例や重症例にも積極的に対応しております。今後も高齢化に伴い増加する合併症を有する症例など安全性に十分配慮しつつ、地域医療機関の先生方と連携し、質の高い内視鏡診療を提供してまいります。2026年度のスタッフは、上下部消化管5名(名和、小林、根岸、島田、岡本梨)、胆膵3名(植木、小川、皿谷)、消化器専攻医5名(吉成、岡本雅、高嶋、名木田、難波)、呼吸器8名(高田、三谷、谷口、下西、武口、岡、松崎、小橋)に加え、外科医師と連携した体制で診療しております。

【年度別内視鏡件数】

年度	2023	2024	2025
上部消化管	3,952	3,960	3,715
下部消化管	1,830	1,817	1,989
小腸・カプセル	40	11	28
気管支鏡	173	197	196
ERCP	655	594	584
胆・膵EUS	911	939	790
EUS-FNA	143	161	143
内視鏡合計	7,704	7,679	7,445

〈地域医療機関の先生へ一言〉

地域の中心となる内視鏡センターとして、より一層努力していく所存でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

がん診療統括部



がん診療統括部風景

遠藤 久之 がん診療統括部長
腫瘍内科統括科長

井田 健太郎 がん診療統括部次長
放射線診断・IVR 科統括科長

岡崎 正典 がん診療統括部次長
緩和ケアセンター長
緩和ケア科長

診療の特色

2006年8月に厚生労働省より広島県における「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、がん診療統括部は院内のがん診療を横断的に統括する部署として2007年10月に誕生し今年で19年目を迎えました。2019年4月にはがんゲノム医療連携病院に選定され広島県東部のがんゲノム医療を担っています。同年8月には緩和ケアセンターを設立したことで、2020年4月よりがん診療における高次の機能を有するとして「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」に指定されました(高度型は2023年3月末日で廃止)。

2023年4月1日から始まった第4期がん対策基本計画(全体目標『誰もががんとともに自分らしく生きられるよう、全ての国民でがんの克服を目指す。』)に基づいて当院も地域がん診療連携拠点病院として、がん予防、がん医療、がんとの共生を3つの重要項目として福山・府中二次保健医療圏および近隣地域におけるがん診療の発展に寄与しております。

がん医療においてはがんゲノム医療、がんのリハビリテーション、緩和ケア、妊孕性温存の益々の充実を図り、より強く求められているAYA世代・高齢者へのがん対策にも取り組んでまいります。がんとの共生ではがん看護外来、がん相談・がん患者支援センターの役割強化を図り、地域社会との連携、がん患者の社会的支援(サバイバーシップ支援：(例)就労支援、がん患者の自殺対策など)につなげていきたいと思っております。

がん診療連携拠点病院・がん診療統括部

〈業務実績 2025年度〉

がん手術件数：2,393件

放射線治療患者実人数(新患+再患)：588人

がん薬物療法 外来化学療法室実施件数：8,690件

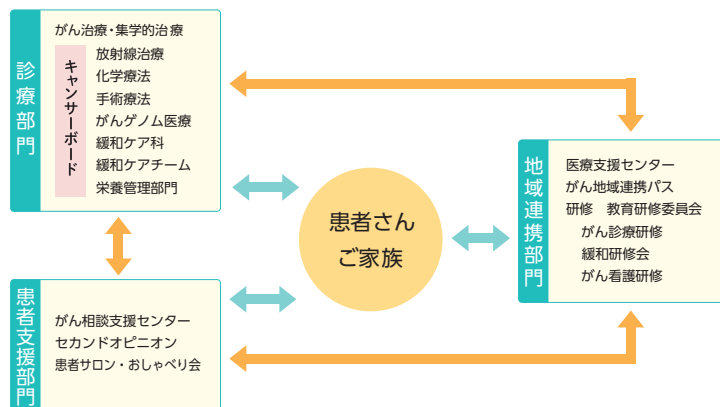
緩和ケアチーム依頼件数(新規)：218件

がん患者栄養指導件数：4,818件

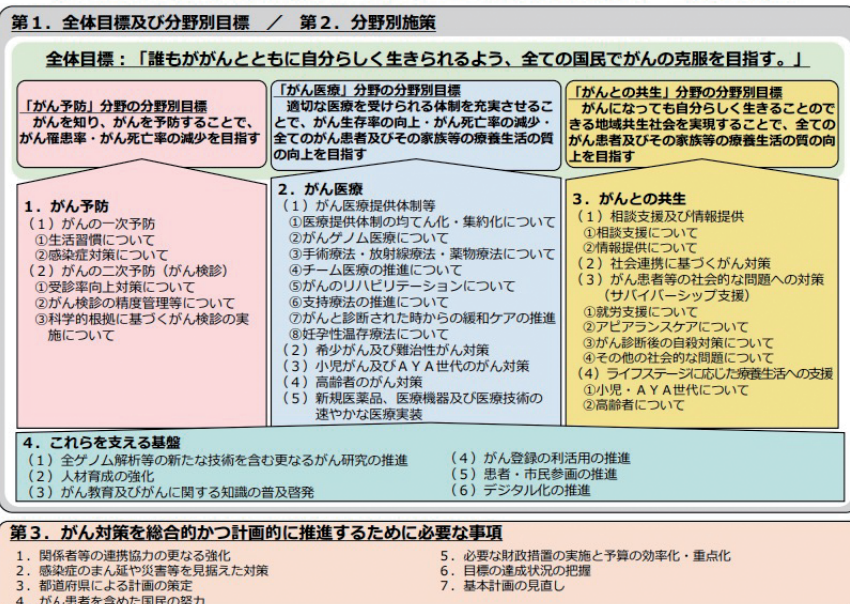
がん相談実施件数：2,390件

がん登録件数：2,163件(5月20日時点)

がん診療統括部は診療部門、患者支援部門、地域連携部門からなり、各部署と連携して“チーム医療”の達成を目指しています。



第4期がん対策推進基本計画



外来化学療法センター

がん診療統括部



遠藤 久之 臨床研究部長、腫瘍内科統括科長、
外来化学療法センター室長、がん相談支援室長
麻生 光美 腫瘍内科科長

診療の特色

「外来化学療法センター」は外来通院でのがん薬物療法(化学療法)を専門に実施する部門で、各診療科の外来化学療法を行っています。現在のセンターは2013年5月から運用開始し、2025年度からは26床(リクライニングチェア20台、ベッド6床)に増床して運用しております。設備では窓のある明るいスペースの中に診察室および無菌調剤室を併設し、トイレ2か所設置など治療中の環境にも配慮しています。治療(がん薬物療法)と連続して診察、インフォームド・コンセント(説明と同意)、無菌調剤と薬剤指導、相談やカウンセリングなどが行える体制で、治療の実施だけでなく副作用の予防、対処、生活指導を含め、治療を受けながら生活される患者さまをチーム医療(医師、看護師、薬剤師ほか)としてサポートすることを目指しています。

当センターでは、がん薬物療法専門医・看護師(がん化学療法看護認定看護師等)・薬剤師(がん薬物療法認定薬剤師等)を含めたスタッフにより各診療科の外来化学療法を実施しており、腫瘍内科外来診療も実施しています。

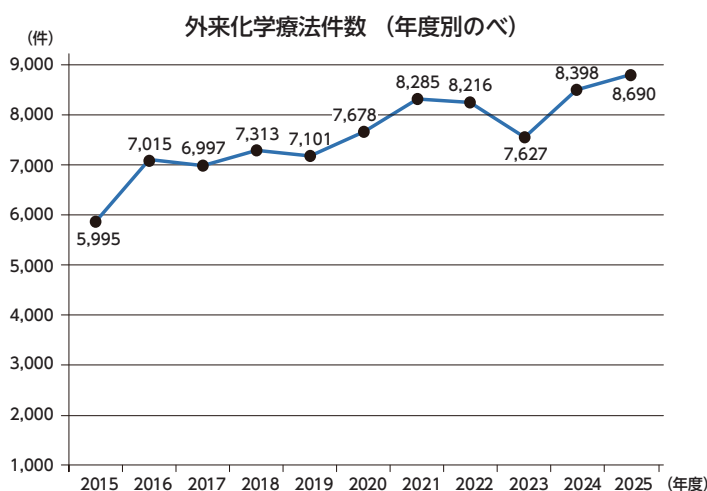
当院の外来化学療法は、2007年12月に開設以来、毎年のように治療件数は増加し最近ではほぼ月700件以上の治療を実施しています。治療薬の併用などにより1件の治療の所要時間も長くなってきており、混雑時には予定を調整していただいたり、お待ちいただくことがあるかと思いますが安全な治療を第一にしておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

がん薬物療法を効果的に継続するためには支持療法や早期からの緩和ケアを活用することが重要と考えています。必要に応じて精神腫瘍科、臨床心理師、緩和ケアセンター、医療支援センター、がん相談支援センター、がん看護外来、栄養科などにも協力を得て、患者さまを中心とした広い意味での「チーム医療」体制を目指しています。また、在宅時のサポート体制として、かかりつけ医を含めて地域の医療機関と外来化学療法中の患者さまの診療連携も行っています。

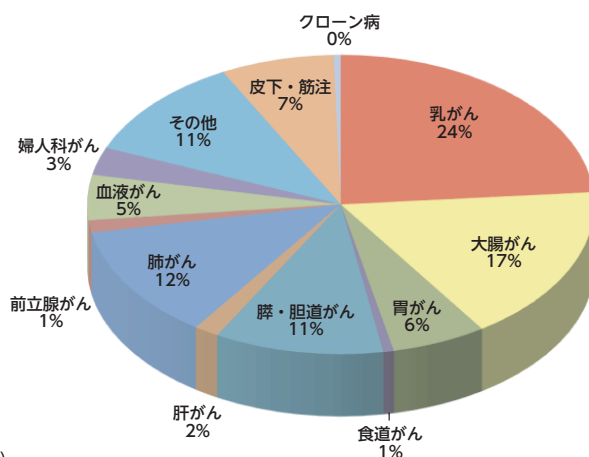
〈対象疾患〉

がんの薬物療法(化学療法、免疫チェックポイント阻害剤治療、ホルモン療法など)、良性疾患における生物学的製剤の投与の一部(炎症性腸疾患、乾癬など)。

〈診療実績〉



2025年度 外来化学療法件数 がん種別割合



〈地域医療機関の先生へ一言〉

外来化学療法中もかかりつけ医として基礎疾患の治療継続だけでなく、中心静脈ポートからの抜針や対症療法など患者さまの治療と在宅療養の支援をどうかよろしくお願いいたします。外来化学療法中の患者さまについて疑問点や問題点などがありましたら、どうぞ外来化学療法センターまでご連絡ください。

緩和ケアセンター

palliative care center

岡崎 正典 がん診療統括部次長、緩和ケアセンター長、緩和ケア科長



ご挨拶

院内・地域における緩和ケアのさらなる質の向上を目指し、“緩和ケアセンター”を2019年8月1日に開設いたしました。緩和ケアセンターは、全てのがん患者さんやそのご家族などに対して、診断時から迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するために、これまでの『緩和ケアチーム』『緩和ケア病棟』『緩和ケア外来』を統括する専門的緩和ケアを提供するための院内拠点組織です。また地域の医療機関や在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、訪問薬局等との連携を図り、この地域で切れ目なく適切な緩和ケアが提供できるよう支援することを目指しています。それぞれの部署の業務を紹介します。

〈緩和ケアチーム(PCT)〉

がんに伴う身体症状や精神症状等の緩和ケアに関して、専門的な知識や技術を患者さんに提供すると共に、病院内の医療従事者への支援・教育も行っています。また、主治医等との協働のもとに患者さんおよびご家族などのQOLの維持向上を図っています。

〈緩和ケア病棟〉

痛みや不安などの症状を和らげ、その人らしく最期まで有意義に過ごしていただけるための療養環境を整え、ボランティアを含めた多職種チームで支援しています。月に一回『動物介在療法(AAT)』や緩和ケア病棟ならではの『イベント』を行い、癒しの時間や空間を提供しています。

症状コントロールがついた後は、住み慣れた自宅や施設での療養ができるように在宅調整も積極的に行っています。

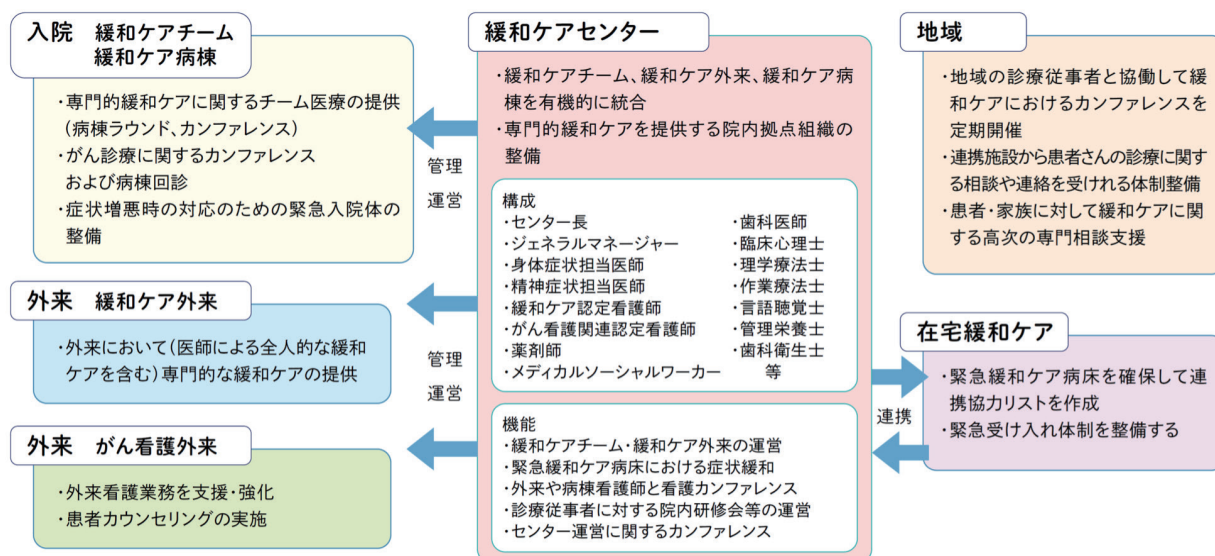
〈緩和ケア外来〉

がんで通院されている患者さんで、つらさや痛みが強く緩和ケアが必要な場合の診察を主科に併せて行っています。院外からのがん患者さんの紹介にも対応しています。

また入院中の患者さんが緩和ケア病棟に転棟が必要になったときには、緩和ケア外来で診察・家族面談を行った後に、速やかに転棟を調整しています。

〈がん看護外来〉

外来でがんを告げられる時や治療の開始・変更時に、主治医の診察に同席し、より良い意思決定(ACP)が出来るよう支援しています。また、患者さん・ご家族などの不安に対して適宜相談対応を行っています。



救命救急センター救急科



DMAT



ドクターカー



救命救急センター病棟



救命救急センター外来

診療の特色

救命救急センターの役割である「重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者」を中心に受け入れています。さまざまな急性疾患が対象となるため複数科と連携して救急患者の受け入れを行なっています。その中で救急科が主に診療にあたる疾患としては多発外傷が多い傾向にあります。

多発外傷患者は、従来のように単科では対処できない呼吸・循環の危機的状況にあり、まず生理学的な危機的状況を治療しながら、精査していきます。さらには全身状態の安定のために必要な科と診療を行い、チームを組んで医療を遂行し救命することになります。ホットラインからの重症患者の初療、処置、治療、救命救急センター内での重症患者管理、家族への説明など、基本的には重症患者は救急科が主治医となり単科に渡すことができるまで主治医として治療を行っています。この点がER型の救命救急センターとは異なり、受け持ち患者を治療し医師としての責任感や治療に対して努力する意識を育てています。

救命救急センターの入院病床は24床あり、内因性、外因性を問わず集中治療が必要な患者を各科と協力しながら受け入れて診療を行っています。災害拠点病院としての活動にも力を入れており、災害医療チーム(DMAT)は定期的に県内外の訓練に参加し技量の維持に努めています。また、ドクターカー(ラピッドレスポンスカー)の運用による病院前救護体制の充実にも努めています。

〈対象疾患〉

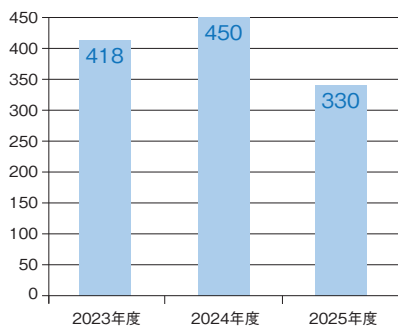
多発外傷、急性中毒、熱傷、重症敗血症など多岐にわたりますが、当救命救急センターは厚生労働省の推進する地域包括ケアの中でも3次救急医療を担うセクションに位置付けられています。また、総務省が推進する進化する救急救命士業務内容とも整合性を取りながら、対応していくことが求められています。

原則的には現場の救急救命士が判断した重篤な病態に即応するために、ホットラインによる要請に対し診療を行っています。

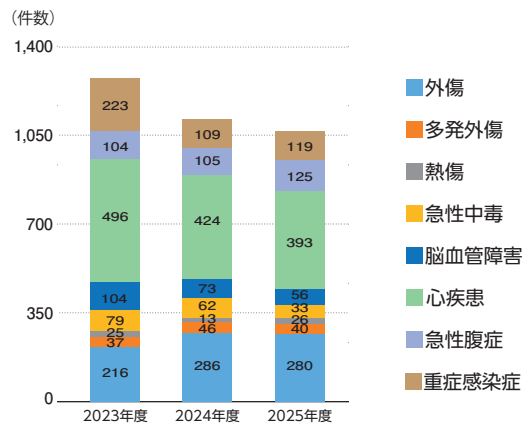
既に病院で医療がタッチしている事例においては診断が付いていることがほとんどで、それぞれ各専門領域の医師による診療をお願いしています。

〈診療実績〉

ホットライン件数



救命救急センター入室患者疾患別割合



〈地域医療機関の先生へ一言〉

引き続き「安全で質の高い救急医療の提供」を目標に救急医療を実践してゆきます。今後ともよろしくお願いいたします。

〈スタッフ紹介〉



救命救急センター
センター長、統括科長
柏谷 信博



科長
米花 伸彦



科長
大熊 隆明



科長
石橋 直樹



科長
池上 良一



科長
正保 稔史



科長
永島 健太



医長
橘高 早紀



医師
高野 裕太



医師
坪井 彩花



医師
工藤 梨世

中央手術部



日高 秀邦	中央手術部長、麻酔科・がんペインクリニック統括科長
青江 尚志	中央手術部次長、産婦人科科長
山名 圭哉	中央手術部次長
山下 安彦	中央手術部次長、耳鼻咽喉・頭頸部外科統括科長
末澤 孝徳	中央手術部次長

診療の特色

中央手術部は、中央手術室、集中治療室、中央材料室からなります。

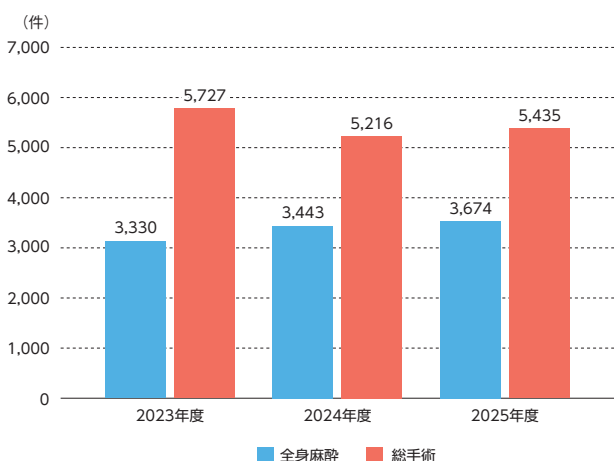
手術室は10室で運用しています。計104名の手術担当医師、14名の麻酔科医師、42名の看護師、1名のクラーク、1名のドクターアシスタントで年間約5,000～6,000例の手術に対応しています。そのうち約700例が緊急手術です。夜間・休日も2列までの緊急手術に対応できるよう手術室看護師、麻酔科医師が24時間院内に常駐、院外待機しています。当院で行われた全手術症例は、昨年までの過去3年間（2023～2025年度）に5,727例、5,216例、5,435例と推移し、緊急手術は、それぞれ、686例、698例、717例でした。麻酔科管理症例は、3,770例、3,819例、4,088例で、このうち全身麻酔は、3,330例、3,443例、3,674例でした。2020年度以降の過去3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で予定手術、緊急手術どちらも10%程度減少しましたが、徐々に回復し2025年度では新型コロナウイルス感染症蔓延以前の水準に戻りました。（2024年度以降に全手術件数が減少したのは、眼科の局麻下の処置の一部を外来で行うようになったためです）。

手術室に隣接して計12床の集中治療室が設けられています。1名の専従医、13名の兼任医師、42名の看護師、1名のクラーク、2名のナースアシスタント、1名のドクターアシスタントで、ICU8床、HCU4床を運用しています。救命救急センターが院外の救急患者を受け入れるのに対し、中央手術部の集中治療室は院内で発生した重症患者、大手術後の患者の診療を担当しています。集中治療科専門医を含む麻酔科医師が24時間常時勤務し、人工呼吸、血液浄化、心肺補助などの先進の集中治療を提供しています。主な症例は大手術後の患者、敗血症や呼吸不全、心不全、腎不全等の臓器不全を伴う重症患者です。2025年度（2024年度）の入室患者数はICUとHCU合わせて延べ1,114名（1,074名）、その内、大手術後患者は989名（933名）、院内発生の重症患者は125名（141名）でした。

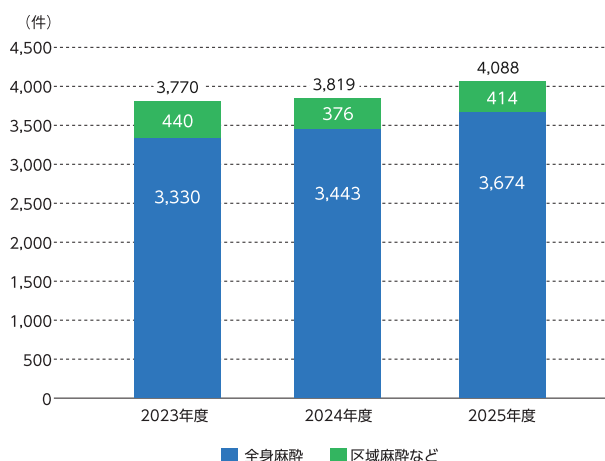
また、手術室に接して4床の術後回復室を設けており、原則的に全身麻酔手術後の症例を全例収容し全身状態が落ち着くまで経過観察、診療しています。集中治療室看護師と集中治療室勤務医、麻酔担当医が管理しています。

〈診療実績〉

過去3年間の総手術・全身麻酔件数の推移



過去3年間の麻酔科管理症例数



看護部



内田 朋子	副院長、看護部長、医療支援センター副センター長
塚村 夕布子	副看護部長、地域医療連携課長
豊田 恭子	副看護部長
野々平 裕子	副看護部長
井上 和美	副看護部長
神原 芳美	副看護部長
小島 正江	副看護部長

〈メッセージ〉

医療ニーズが複雑化多様化する中で、そのニーズに対応するためには、看護職の資質向上・看護の質向上・生涯学習支援・働きやすい職場環境づくりが重要となります。看護部では、看護職がその役割を遂行し、誇りをもっていきいきと働き続けられることを目指しています。

また今年度は、増改築事業に伴う周産期母子医療センターの開設など、新たな機能の拡充に取り組む重要な一年となります。2026年度の看護部スローガンを「見える実践・支え合う組織・やりきる覚悟!」とし、チーム医療の一員として役割を自覚し、各部門と連携しながら「ぬくもりのある看護の提供」に努めてまいります。

〈理念〉

日々の看護を見直し、自己を磨き、ぬくもりの届く看護をしよう

〈基本方針〉

1. 人間の尊厳と人権を尊重し、倫理的配慮に基づいた看護を行います
2. 基本を守り、安全・安心な看護を提供します
3. 地域包括ケアを推進し、継続した質の高い看護を提供します
4. 豊かな人間性と専門性を持った看護実践ができる人材育成を行います
5. チーム医療を推進し、看護が果たすべき役割を実践します
6. 働き方改革を推進します
7. 病院経営に参画します

〈2026年度目標〉

- 目標1. 安全で質の高い看護の提供
- 目標2. ワークエンゲージメントを高める職場環境づくり
- 目標3. 病院経営への積極的な参画

〈看護体制〉

7:1看護

〈認定看護師〉

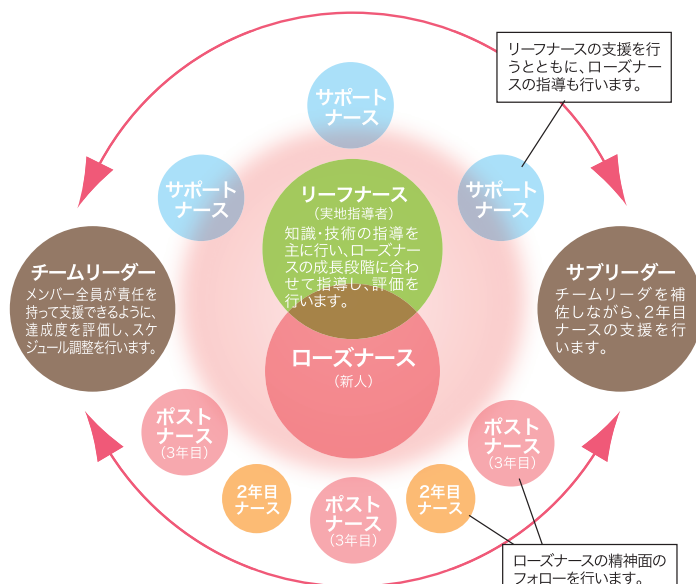
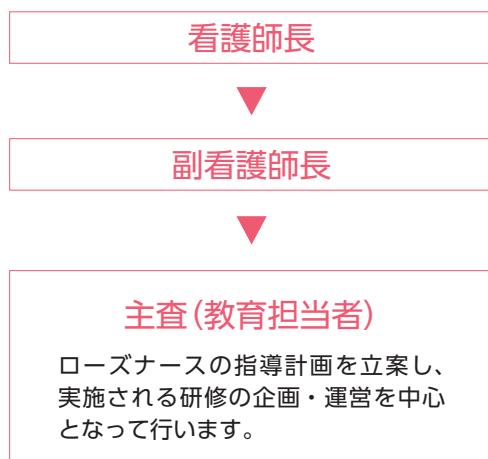
25名(うち 特定認定看護師5名)
 集中ケア(2)クリティカルケア(2)救急看護(2)
 がん化学療法看護(2)がん薬物療法看護(1)緩和ケア(3)
 感染管理(2)手術看護(1)皮膚・排泄ケア(2)
 摂食・嚥下障害看護(1)乳がん看護(2)糖尿病看護(1)
 認知症看護(1)がん放射線療法看護(1)小児救急看護(1)
 透析看護(1)

(2026年4月1日現在)

チームで育成する新人教育システム 福山市民病院ローズシステム

“ローズシステム”とは、チーム全体でローズナース(新人ナース)を教育・支援するシステムです。

●バックアップチームの構成



薬 剤 科



診療の特色

薬剤科では、内服薬や注射薬の調剤、抗がん剤やTPNの調製、入院患者への薬剤指導や薬学的管理、外来がん治療患者への医師診察前面談などに、高度な専門知識をもつ薬剤師がチーム医療の一員として、入院・外来を問わず安全かつ最適な薬物療法をサポートしています。

また、日進月歩の医薬品情報を収集・評価して専門知識の向上を図り、薬物治療計画、服薬指導および薬物モニタリングを通して、スタッフが一丸となって取り組み、実績を積み重ねています。

さらに、感染制御チーム (ICT:Infection Control Team)、栄養サポートチーム (NST:Nutrition Support Team)、緩和ケアチーム (PCT:Palliative Care Team)、心臓リハビリテーションチーム、せん妄・認知症対策チームなど多職種チームに積極的に参画し、薬剤師ならではの視点で治療効果の最大化と副作用の最小化に努めています。

〈調剤部門〉

全自動PTPシート払出装置 (ロボピック) や自動注射薬払出機、バーコード認証システムを使用し、調剤業務の効率化と調剤過誤の防止を図りながら、正確で迅速な調剤を行っております。また一包化など患者さん一人一人に合わせた調剤方式や、相互作用・投与禁忌・重複投与等の処方監査を行うことで、患者さんに適切なお薬が提供できるよう努めています。

また2025年度の院外処方せん発行率は89.5%となり、保険薬局との連携が今後も重要となっております。院外処方せんへの検査値及び身体情報の印字により地域全体として、患者さんの治療を支えています。

〈抗がん剤調製部門〉

抗がん剤は安全キャビネットを使用し全て薬剤師が調製しています。また院内プロトコルに基づいたレジメンチェック (投与量・投与間隔・検査値等) を徹底し、安全ながん薬物療法の実施を担保しています。

〈外来がん患者指導部門〉

認定資格を有する薬剤師が診察前に面談を行い、服薬状況や副作用を確認し、状況にあわせて減量や支持療法など処方提案をしています。医師や看護師へのフィードバックだけでなく、地域の保険薬局とも連携し、患者さんが安心して治療を継続できる体制を整えています。

〈病棟薬剤業務部門〉

各病棟に専任薬剤師を配置し、持参薬鑑別から、薬剤情報提供や薬歴管理、副作用チェックおよび薬物治療の投与設計などを、多職種とも連携しながら、最適な薬物治療が行われるよう支援しています。

〈認定資格取得状況〉

当科では、日本医療薬学会や日本病院薬剤師会等が認定する専門薬剤師を目指して、日々研鑽に努めています。

日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	15名
日本医療薬学会 がん指導薬剤師	1名
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 がん薬物療法専門薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	4名
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	3名
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本緩和医療薬学会 緩和医療暫定指導薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士	3名
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	3名
日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師	1名
日本小児臨床薬理学会 小児薬物療法認定薬剤師	1名
日本循環器学会 心不全療養指導士	1名

放射線科

診療の特色



画像診断では、320列MSCT装置2台、3TMRI装置2台、IVR-CT（血管造影CT複合装置）1台、血管撮影装置2台、RI装置2台、PET/CT装置1台、X線透視撮影装置4台（内視鏡用2台）、X線一般撮影室4室と乳房撮影装置等を含め合計37台の装置で撮影・治療しており、すべての装置は放射線機器管理士により適正に管理されております。放射線治療は高精度放射線治療装置1台で治療しており、装置は放射線治療品質管理士・医学物理士により高精度に管理されております。

放射線科では、診療放射線技師37名（会計年度職員含む）で主に放射線を利用した業務を行っております。装置の特性を十分発揮できるように、それぞれの分野で専門資格の取得や研究・発表を進めております。質の高い検査・治療を患者さまに提供できるよう、これからも常に知見を広げ、地域の医療に貢献してまいります。

〈一般撮影・X線透視部門〉

一般撮影部門では、FPDによる様々な部位の低被ばくかつ高画質な撮影が可能で、入院症例や救急症例にも迅速に対応しています。X線透視部門では、胃の術前バリウム検査など消化管疾患の診断、術後のドレーン交換、ミエログラフィーを行っています。内視鏡センターでは内視鏡装置と併用して肝胆膵を含めた消化器疾患の診断や治療等を行っています。

〈CT部門〉

被ばく低減や高速撮影など高性能なCT装置の能力を十分に発揮できるように専門的な知識・技術を高め、患者さまに寄り添った接遇に心がけ、不安や苦痛をできるだけ少なく検査を受けていただけるようスタッフ間の連携を取りながら日々業務を行っています。

〈MRI部門〉

最新の技術を駆使し、高画質だけでなく検査時間の短縮や静音化にも配慮し、患者さんの負担軽減を目指した環境づくりに努めています。さらに、閉所が苦手な方にも安心して検査を受けていただけるよう、医師と放射線技師が連携し、安全・安心な検査を提供します。

〈IVR部門〉

CT一体型血管撮影装置を導入しており、X線透視下での検査・治療からCT撮影までを同一ベッド上で行う体制を整えております。また血管撮影装置では主に循環器疾患・脳血管疾患に対して医師・看護師・臨床工学技士と協力して患者さま中心の医療に努めております。

〈核医学部門〉

2025年に装置を更新し、短時間での撮影が可能となり、患者さまの負担軽減と検査精度の向上が可能となりました。今後も安全管理にも配慮し、安心して検査を受けていただける体制を整えてまいります。

〈放射線治療部門〉

高精度放射線治療装置による誤差の少ない放射線が提供できるよう、品質管理プログラムに沿ったきめ細かい品質管理を実施しております。これからもそれぞれの患者さんの状況に応じた優しい治療を提供できるよう多職種と連携して努めてまいります。

〈放射線診療及び管理に係る保有資格一覧〉

放射線診療および管理に係る資格	人数
第1種放射線取扱主任者	2
放射線機器管理士	3
放射線管理士	2
放射線被ばく相談員	2
救急撮影認定技師	4
災害支援認定診療放射線技師	1
オートブシー・イメージング認定診療放射線技師	2
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	7
骨粗鬆症マネージャー	1
X線CT認定技師	5
画像等手術支援認定診療放射線技師	3
肺がんCT検診認定技師	1
磁気共鳴(MRI)専門技術者	2
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	1
放射線治療専門放射線技師	4
放射線治療品質管理士	3
医学物理士	1

〈診療実績〉放射線検査および治療の状況(年度別、検査種別)

	一般撮影	ポータブル	手術室	骨塩定量	透視造影	内視鏡	CT	MRI	核医学		コピー	血管撮影		放射線治療	計
									RI	PET-CT		循環器	その他		
2023年度	33,814	12,483	2,241	1,934	1,667	828	24,422	7,388	2,261	1,783	26,996	1,382	369	8,975	126,543
2024年度	37,377	13,066	2,438	2,108	1,928	791	25,912	7,443	2,265	1,860	29,964	1,296	343	8,405	135,196
2025年度	36,167	11,517	2,601	2,166	2,019	780	25,428	7,359	2,184	1,900	32,065	1,193	353	8,990	134,722

高額医療機器共同利用のCT、MRI、RI検査予約は、電話にて予約を受け付けております。

放射線科受付直通 TEL：084-941-5127 または 病院代表 TEL：084-941-5151 内線1170 放射線科受付

〈地域医療機関の先生へ一言〉

PET/CT検査予約は、PET/CT受付直通 TEL：084-941-5128または病院代表TEL：084-941-5151 内線3030 PET/CT受付詳しくは47ページの「PET-CT予約手順について」をご覧ください。

今後も各診療科、ご紹介いただく各医療機関との連携を密にし、安全・安心の放射線検査・治療を地域の皆さまに提供できるよう心掛けてまいります。

PET-CT 予約手順について 予約申込手順

『PET/CT 検査紹介状（診療情報提供書）』に必要事項をご記入の上『TEL.084-941-5128』へPET/CTの申し込みのご連絡をお願いします。その際、仮予約をさせていただきますので、予約日時を記入した『PET/CT 検査紹介状（診療情報提供書）』を当院『FAX.084-946-5209』へ送信してください。（原本は貴院にて保管してください。）

※『PET/CT 検査紹介状(診療情報提供書)』は当院ホームページからもダウンロードしていただけます。下記をご参照ください。

FAX受信後、当院RI・PET-CT受付から内容確認の電話をさせていただき、内容の確認をもって本予約とさせていただきます。

患者さんに、『PET/CT 検査紹介状(診療情報提供書)』以外の書類一式をお渡しください。
また、貴院からの紹介画像データ・画像所見等も併せてお渡しください。

予約日の、2診療日前に当院より患者さんに確認のご連絡をいたします。

予約当日に、**地域医療連携課「紹介受付」**に保険証、予約票等を添えてお持ちいただくよう、ご案内
ください。

<https://www.fc-hosp.jp/>

当院ホームページアドレス

当院ホームページの
トップにある診療科・
部門をクリック。

放射線診断・IVR科
をクリック。

申込関係書を
クリック。

PET/CT 検査
[PDF ファイル/689KB]
をクリック。

[illegible][illegible]

上記のPDFファイルが開きますので、保存してお使いください。
(フォーム入力に対応していますので電子カルテ等からテキストデータをコピーできます。)

特色・診療内容
 ・常規診療
 ・対象疾患
 ・診療実績
 ・PET/CT
 ・PET/CT予約状況
 ・PET/CTに予約のし方
 ・申込関係書
 ・CT・MRI・BIの検査予約について

このページを拝見している人は

「医師一瞥へ」

○・・・予約可能です
×・・・予約が埋まっています
×・・・お断り、おせねに感謝ください
一・・・予約を受け付けていません

デー・ナイトサービス 2018年6月1日~9日

日付	デー・ナイトサービス 2018年6月1日~9日	
	業務時間13:30 後夜営業14:30	業務時間14:00 後夜営業15:00
6月6日(水)	×	×
6月7日(木)	×	×
6月8日(金)	×	○
6月9日(土)	—	—
6月10日(日)	—	—
6月11日(月)	×	×

また、「PET/CT予約状況」のページで空き状況の確認も行えます。(1日1回更新しております)

☆緊急での検査が必要な場合は
『084-941-5128』へご相談ください。

リハビリテーション科

診療の特色

リハビリテーション科は、急性期医療を担う中核病院の一部門として、さまざまな疾患に対する急性期リハビリテーションに重点を置いて取り組んでいます。急性期リハビリテーションは、発症や手術後早期に実施されるリハビリテーションのことで、全身状態が不安定な場合が多いため、十分なリスク管理を行いつつ身体機能の回復や日常生活に必要な動作の改善等を図っております。



運動療法室



心臓リハビリテーション室

先進的な機器の活用も積極的に行っており、2017年度より、ロボットスーツHAL®自立支援用単関節タイプ、2022年度よりHAL®自立支援用下肢タイプProを導入し、質の高いリハビリに取り組んでいます。

2026年度からは、周産期母子医療センターにおける新生児に対する介入も開始します。

また当院は、地域がん診療連携拠点病院(高度型)でもあり、周術期から緩和ケアに至るまでさまざまな患者様にリハビリを行っています。2021年度からは医療リンパドレナージセラピストの資格を取得した療法士によるリンパ浮腫治療への介入も行っております。

広島県地域リハビリテーションサポートセンターに指定され、地域の通いの場の立ち上げや継続支援に参加しています。

〈疾患別リハビリテーション基準〉

心大血管疾患リハビリテーション I
運動器リハビリテーション I
脳血管疾患リハビリテーション I
呼吸器リハビリテーション I
廃用症候群リハビリテーション I
がん患者リハビリテーション

〈スタッフ構成〉

リハビリテーション専任医	1名
理学療法士(PT)	18名
作業療法士(OT)	10名
言語聴覚士(ST)	3名

〈認定・研修修了者〉

心臓リハビリテーション指導士	8名
心不全療養指導士	1名
3学会合同呼吸療法認定士	16名
がんのリハビリテーション研修修了者	25名
日本摂食嚥下	
リハビリテーション学会認定士	1名
認定理学療法士(循環)	1名
認定理学療法士(運動器)	1名
認定理学療法士(呼吸)	3名
認定理学療法士(脳卒中)	1名
認定理学療法士(発達障害)	1名
認定作業療法士	1名
医療リンパドレナージセラピスト	2名
認定ハンドセラピスト	1名

栄養管理科



診療の特色

栄養管理科では、管理栄養士7名で入院患者さんの一日も早い回復を願って、安全でおいしい食事の提供に努めています。そして、食事療法の必要な方には、生活習慣病をはじめとする各種疾患の栄養指導を入院中あるいは外来時に行い、ライフスタイルに合わせた実行可能なプランを提案しています。またNST（栄養サポートチーム）の専任や透析予防診療チーム、緩和ケアチーム、心臓リハビリテーションチーム、せん妄・認知症ケアチーム、心臓血管外科リハビリテーション、大腿骨近位部骨折カンファレンス、化学療法プロトコル審査委員会メンバーとしてチーム医療に参画し、患者さん一人ひとりのケアや栄養状態に応じた栄養管理を行っています。

〈安心・安全でおいしく食べやすい食事の提供〉

嗜好や回復の状況などに配慮し、メニューや調理法に日々工夫を重ねています。「地産地消」を推進するため、食材は可能な限り地元や近郊あるいは日本国内で収穫された安心で新鮮なおいしい食材を使用しています。季節を感じていただけるよう、年に約20回程度の行事食などを提供し、入院中にお誕生日を迎えられる患者さんにお祝いケーキとバースデーカードをお届けしています。また、地域がん診療連携拠点病院として、化学療法や放射線療法中の副作用に配慮したメニューを用意し、低栄養状態を回避して治療が継続できるよう取り組んでいます。

〈栄養指導〉

医師の指示に基づき、患者さんの状況に適した効果的な食事療法や食習慣の改善について栄養指導を実施しています。外来患者さんは予約制となっていますが、入院患者さんで食事療法が必要な方は、担当の管理栄養士が病室を訪問し、食事内容の説明や食事のアドバイスを実施し、食事療法への理解を深めるサポートをしています。また、周術期の栄養管理として麻酔科と連携し、術前外来と周術期管理外来の患者さんにSGAとGLIM診断基準でスクリーニング後栄養リスクを把握し、栄養管理計画を作成しています。術後は栄養リスクを再評価し、栄養管理計画の見直し等を行って手術後の早期回復に取り組んでいます。その他にも、外来化学療法室と連携を図り副作用に合わせた栄養管理や肝臓病教室、腎臓病教室に参画し治療とQOLの向上の両面に貢献できるようサポートしています。

〈NST（栄養サポートチーム）活動〉2025年度実施件数：689件

患者さんの栄養状態の改善を目的として、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士など多職種のメンバーと嚥下リンクナース会で栄養サポートチームを編成し、カンファレンス・ラウンドを行っています。日本栄養治療学会（JSPEN）認定のNST稼働施設として活動し、必要に応じて褥瘡チーム等とも連携を取り、チーム医療の推進を図っています。各スタッフが専門性を活かしながら、患者さんに寄り添った栄養サポートができるよう心掛けています。

〈資格取得〉

〈2025年度 栄養指導実施件数〉

NST 専門療法士	5名
栄養治療専門療法士 (周術期・救急集中治療)	1名
栄養治療専門療法士 (がん)	1名
TNT-D 認定管理栄養士	1名
病態栄養専門管理栄養士	4名
がん病態栄養専門管理栄養士	2名
心臓リハビリテーション指導士	1名

	外来				入院			周術期	透析予防
	1回目	2回目	化学医療	小計	1回目	2回目	小計		
4月	18	9		27	543	281	824	221	
5月	30	8	5	43	551	251	802	236	
6月	21	9	2	32	566	308	874	227	
7月	19	6	5	30	646	275	921	268	
8月	27	12	5	44	547	221	768	228	
9月	19	9	1	29	538	280	818	316	
10月	36	16	2	54	633	331	964	269	9
11月	21	12	1	34	519	250	769	216	8
12月	23	19	7	49	541	253	794	251	13
1月	14	15	1	30	582	254	836	226	9
2月	20	10	9	39	528	237	765	246	9
3月	19	13	7	39	574	217	791	240	9
計	267	138	45	450	6,768	3,158	9,926	2,944	57

臨床検査科



診療の特色

医療技術部 臨床検査科は、検体検査部門(生化学免疫検査、血液・一般検査、輸血検査、微生物検査)、病理部門(病理診断科と同室)、生理検査部門と中央採血室の4部門に分かれています。

各診療科の外来患者さんや入院患者さんの診断や治療に必要な検査だけではなく、ICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)、NST(栄養サポートチーム)、DMAT(災害派遣医療チーム)、輸血療法委員会、医療安全管理委員会、院内感染対策委員会等のメンバーとして活動し、チーム医療の一端を担っています。

専門的な技能や知識の向上を目的として、学会・研修会に積極的に参加し各種認定資格の取得や学会発表を行っています。また血液・病理部門では医師と鏡検の目合わせや症例検討などのカンファレンスを行っています。

中央採血室では、8時から採血を開始しており、自動採血・採尿受付機を導入して採血の待ち時間軽減に努めています。生理検査部門では胎児超音波スクリーニング検査、関節エコー検査、乳腺甲状腺エコー検査等の広い領域の検査を行い、診療及び患者サービス向上に努めています。

救命救急センター併設病院の検査科として、24時間・365日 緊急検査に対応しています。継続的に業務改善を進め、『検体の向こう側には患者さんが待っている』という想いを忘れず、安全で質の高い医療サービスを常に提供できるよう努力してまいります。



全自動化学発光免疫測定装置

〈品質保証〉

検査結果精度の維持管理として、「日本臨床衛生検査技師会」「日本医師会」「広島県医師会」の精度管理調査及び各メーカーサーベイに参加し検査精度の担保に努めています。

当院検査科の施設認証(検査の標準化かつ精度保証)

- 日本臨床検査技師会 品質保証施設認証
- 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定(I&A)
- 日本臨床細胞学会 施設認証
- 超音波検査室の制度認定
- ISO 15189:2022(検体検査):国際規格に基づく品質と能力に関する規格

〈臨床検査技師の認定資格取得状況〉

超音波検査士(循環器領域)	3人	細胞検査士	5人
超音波検査士(消化器領域)	2人	認定病理検査技師	2人
超音波検査士(血管領域)	2人	認定輸血検査技師	2人
超音波検査士(健診領域)	2人	認定血液検査技師	3人
超音波検査士(産婦人科領域)	1人	認定一般検査技師	1人
超音波検査士(体表領域)	1人	認定心電図検査技師	1人
超音波検査士(泌尿器領域)	1人	血管診療技師(CVT)	1人

臨床工学科



診療の特色

臨床工学科は、臨床工学科長1名(麻醉科長・中央手術部集中治療室長兼務)、臨床工学科次長1名、臨床工学科主査4名、臨床工学技士12名で構成されています。

われわれ臨床工学技士は一般的な認知度が低い職種です。ちなみに臨床工学技士は「生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者をいう。」と法律に定められています。生命維持管理装置とは、人の呼吸、循環又は代謝の機能の一部を代替し、又は補助することが目的とされている装置であり、取り扱いを間違えれば重大な事故につながります。これらの装置を安全に使用するためには、装置に対して専門的な知識や技術を有していなければなりません。

臨床工学科は血液浄化業務、心臓カテーテル業務、ペースメーカー業務、人工呼吸等の医療機器の保守管理業務、手術室での人工心肺業務、高気圧酸素治療業務、内科領域のラジオ波業務等と多岐に渡る業務を行っています。また、ラジオ波業務は乳腺甲状腺外科領域にも拡大し、2014年度より始まった泌尿器科領域のロボット支援手術業務も現在では消化器外科領域や呼吸器外科領域にまで拡大しています。これらの装置や治療ごとのモードや機能の特徴を頭や体に覚えこませ迅速に対応しなければなりません。また、安全管理向上のために、医師などの院内スタッフへの安全使用のための説明なども忘れてはいけない大切な仕事です。

今すぐに需要があるわけではないのですが、将来的な医師のタスク・シフト/シェアに対応できるように、厚生労働大臣指定による告示研修を順次受講しております。また、他施設のように心臓カテーテルでの清潔操作ができるように、施設見学も予定しております。

現在はチーム医療が主流になっていますが、われわれ臨床工学技士は「チーム医療」の中の「律速酵素」的な存在となっています。われわれが迅速な仕事を行うことで医療提供のスピードも速くなります。その意義はチーム医療の中で非常に重要なポジションを占めていると自負しています。

もちろん、どの分野の装置も一朝一夕で覚えることはできませんし、その為には進化しつづける医療から生まれる新しい装置達に置いていかれないように日々の人材育成や自己研鑽に励む必要があります。地域医療支援病院として「地域医療の質と安全を確保できるよう」にチーム医療の一員として支えていきたいと思います。

医療支援センター地域医療連携課

Medical Support Center

医療支援センター・地域医療連携課は、地域の医療機関や施設の皆さまと積極的な連携に取り組み、紹介患者さんの迅速な受け入れや、退院・転院に向けての医療・療養生活の支援を行っています。患者さんやご家族に寄り添い、思いを大切にした支援を心がけています。

今後も、地域と病院をつなぐ架け橋となるよう努めてまいります。

業務内容

- 紹介患者の外来診療予約
- セカンドオピニオン外来の予約

- 紹介登録
- 返書の発送確認

- 逆紹介支援(かかりつけ医探し)

- 入院支援・BATON(PFM)
(入院予定患者さんに対しての療養生活、手術・検査等の説明)

- 転院・退院支援
(患者さんやご家族が安心して地域で療養できるよう、病棟退院支援看護師と協働して支援する)

- 情報発信、広報活動
- 開放病床の運営・管理
(地域の先生方と当院の医師とで共同診療を行う)

- 地域医療連携クリティカルパスの運用

- 相談業務
 - ・がん相談支援センター
 - ・肝疾患相談室
 - ・医療福祉相談
 - ・脳卒中相談

- 病床管理



植木 亨
院長 センター長



内田 朋子
副院長
看護部長
副センター長



塚村 タ布子
地域医療連携課長
副看護部長



⑦紹介・入院・相談受付・地域医療連携課



がん相談支援センター



相談室



肝疾患相談室

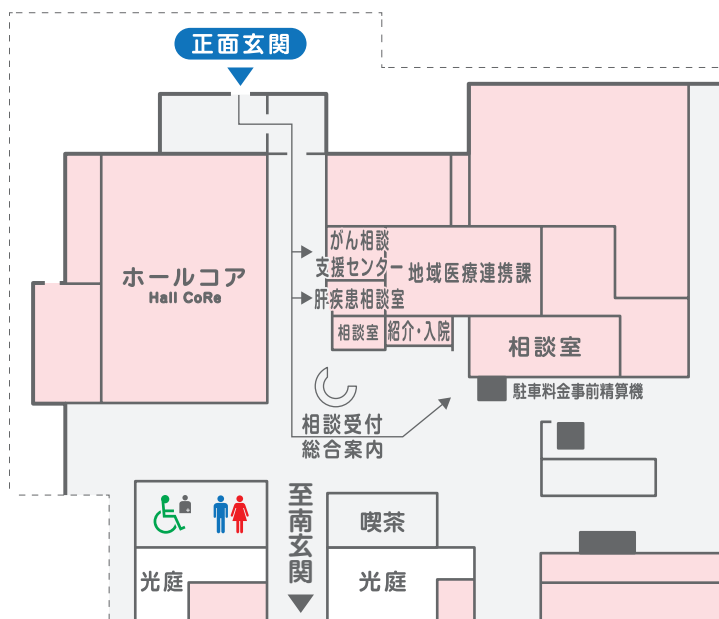


登録医療機関カード



正面玄関

西館1階フロア図



紹介率・逆紹介率

	2023年度	2024年度	2025年度
紹介率	81.2%	80.3%	79.0%
逆紹介率	169.3%	164.4%	167.9%
初診患者数	13,197	13,947	13,888
紹介患者数	10,720	11,202	10,973
逆紹介患者数	22,340	22,929	23,318

「がん」「肝疾患」「医療福祉制度」等に関するご相談を受け付けています。

当院では、「がん」「肝疾患」「脳卒中」などの病気に対する疑問や不安のある患者さんおよびご家族の方の相談にお応えするための相談室を設けています。相談員がお話をお聴きして療養生活や治療選択のお手伝いをさせていただきますので、ぜひご利用ください。

がん相談支援センター

受診機関を問わず、がん、セカンドオピニオンに関するご相談をお受けしています。

また、各種パンフレットや閲覧いただける書籍もご用意してお待ちしています。

- 受付時間／8時30分～17時
(土日・祝日・年末年始を除く)
- 場 所／西館1階 がん相談支援センター
- 相談方法／面談、電話相談
- 連絡先／084-941-5151 (内線3147)
- 費 用／無料
- 対 応／相談員(社会福祉士・看護師)



がん患者サロン「おしゃべり会」

- 開催日時／月1回 第4火曜日 14時～15時
 - 開催場所／西館1階 がん相談支援センター
 - 対 象 者／がん患者さんご家族
 - 費 用／無料
- 患者さん・ご家族が体験したことを同じ立場で語り合う交流の場です。医療スタッフによるミニレクチャーや、当院ピアサポーターによる談話会も随時行っています。

アピアランス(外見)ケア相談会

- 開催日時／月1回 14時～16時
(開催日についてはホームページががん相談支援センターへお尋ねください)
 - 開催場所／西館1階 ホールコア
 - 対 象 者／がん患者さんご家族
 - 費 用／無料
- ウィッグやストーマ用品、補正下着、ターボウなどの展示・相談を行っています。

肝疾患相談室

肝臓の病気について患者さんやご家族の方などの不安や疑問にお応えします。また、肝炎・肝がん・肝硬変の医療費助成制度等のご相談をお受けしています。

- 受付時間／8時30分～17時
(土日・祝日・年末年始を除く)
- 場 所／西館1階 肝疾患相談室
- 相談方法／面談、電話相談
- 連絡先／084-941-5151 (内線3146)
- 費 用／無料
- 対 応／一般相談：看護師(随時)／専門相談：医師(予約制)

相談内容

- 肝疾患についての情報提供
- 医療費助成制度(肝炎・肝がん・肝硬変)
- 検査に関すること
- 地域の肝疾患専門医療機関の紹介
- 病気に対する不安や疑問など

肝疾患連携拠点病院活動

- 市民公開講座
- 肝臓病教室の開催
- 医療従事者研修会



医療相談窓口

患者さんやご家族の方の医療保険や社会福祉制度等に関する疑問や不安など専門の相談員が相談をお受けしています。

- 受付時間／8時30分～17時
(土日・祝日・年末年始を除く)
- 場 所／西館1階 総合案内
- 相談方法／面談、電話相談
- 連絡先／084-941-5151 (内線3136)
- 費 用／無料
- 対 応／相談員(社会福祉士・精神保健福祉士)

相談内容

- 医療保険制度に関する相談
(医療費・高額療養費制度など)
- 社会福祉制度、サービスに関する相談など
- 治療中・退院後における不安や悩み事など
- 仕事と治療の両立支援に関する相談など

脳卒中相談窓口

- 受付時間／8時30分～17時(土日・祝日・年末年始を除く)
- 場 所／西館1階 総合案内
- 相談方法／面談、電話相談
- 連絡先／084-941-5151 (内線3136)
- 費 用／無料
- 対 応／相談員(看護師・社会福祉士)
必要に応じて専門職種に相談

相談内容

- 脳卒中で当院に入院中・入院歴のある患者さんとご家族への情報提供・相談支援など
- 転院先や療養先の相談・支援など
- 再発防止・リハビリ・福祉・介護相談など

予約診療について

患者さんからの予約申し込みはお受けしておりませんので、医療機関から申し込みをお願いいたします。

医療機関の皆さまへ

当院の外来診療は原則予約制となっています。

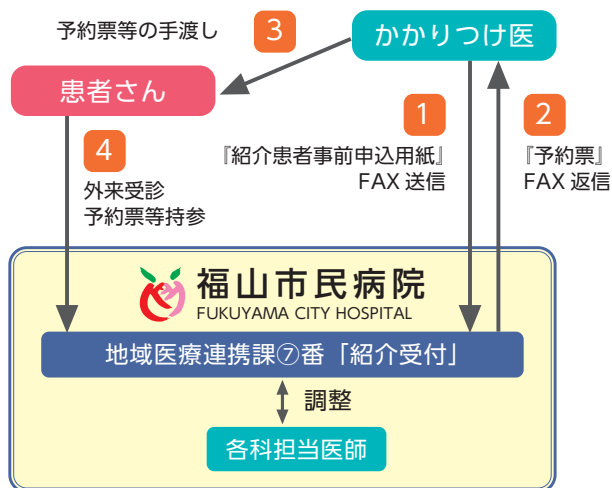
※紹介状をお持ちでも、事前の予約なく来院されると、診察枠の空時間に受診することとなりますので、長時間お待ちいただくことになります(当日、受診できないこともあります)。

患者さんの待ち時間短縮と外来診療をスムーズに行うため、必ず地域医療連携課で事前予約をお取りください。

事前予約申込手順

- 1 『福山市民病院 紹介患者事前申込用紙 (FAX用)』(当院ホームページからダウンロード可)に必要事項をご記入の上、FAXを送信してください。
カルテ作成のため、「**患者名(旧姓)**」「**ふりがな**」「**性別**」「**生年月日**」「**主訴等**」の欄は、必ずご記入ください。
〔申込受付時間：平日(祝祭日を除く)8時30分～16時45分〕
※メールでの予約申し込みや問い合わせはお受けできません。
- 2 FAX到着後、各診療科担当医師と相談の上、『予約票』を作成し、FAX返信いたします。
※調整に時間がかかる場合があります。お問い合わせは下記「予約専用ダイヤル」までご一報をお願いします。
- 3 返信された『予約票』の「**患者氏名**」「**ふりがな**」「**生年月日**」に誤りがないかご確認の上、『紹介状(診療情報提供書)』とともに必ず患者さんへお渡しください。
※『福山市民病院 紹介患者事前申込用紙 (FAX用)』は紹介状(診療情報提供書)にはなりません。
- 4 外来受診予約当日に、**西館1階地域医療連携課⑦番「紹介受付」**に予約票、紹介状(診療情報提供書)、マイナンバーカード(マイナ保険証)等を添えてお持ちいただくよう、ご案内ください。

予約診療の流れ



地域医療連携課

FAX.084-946-5209

予約専用ダイヤル

TEL.084-946-5167

ナビダイヤル

TEL.0570-550-318

申込受付時間

8時30分～16時45分/平日(祝祭日を除く)

◎受付時間外に送信いただいた場合は、翌日の返信となりますのでご了承ください。

☆**緊急**で当日受診が必要な場合は、**代表番号「084-941-5151」**から、各受診科の外来担当医師に直接ご相談ください。

☆**時間外・休日**の救急外来受診の場合は、救急外来(代表番号)にご連絡ください。

☆**新型コロナウイルス感染症**に関する問診票は不要になりました。

※ CT・MRI・RI・PET-CT 等の検査予約については、放射線科(代表番号)に直接お申し込みください。

CT・MRI・RI

TEL.084-941-5127 内線 1170 放射線科受付

PET-CT

TEL.084-941-5128 RI・PET-CT 受付

福山市民病院 紹介患者事前申込用紙（FAX 用）

年 月 日

※ 受付時間 8 時 30 分から 16 時 45 分

医療支援センター地域医療連携課

FAX 084-946-5209

TEL 084-946-5167

紹介元医療機関
名称及び所在地

診療科

医師名

電話番号

FAX 番号

紹介状原本は当日必ずお持ちください。

希望診療科・医師名	科	医師・希望なし
第 1 希望日時	年 月 日（曜日）	時 分頃
第 2 希望日時	年 月 日（曜日）	時 分頃

* 予約状況によっては、ご希望に沿えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※緊急で当日の受診が必要な場合は、病院代表電話 084-941-5151 から各診療科の医師へ直接ご相談ください。

ふりがな	男・女 様	生年月日 西暦 年 月 日 大正・昭和 平成・令和 () 歳
患者名 (旧姓) ※重複登録防止のため確認しています。		
現住所		電話番号 (自宅・携帯)
紹介目的：治療・精査・手術・その他()		
傷病名・主訴：		
紹介内容、症状経過(告知の有無等)をなるべく詳細にご記入ください。		
※ 該当する場合 チェックしてください	□聴覚障がい者 ➡ □通訳者が同伴予定	遠隔手話通訳の利用 (希望・不要) □外国人 (言語)
施行済の検査について、持参可能なものに✓をお願いします。 □血液検査 □内視鏡 □病理組織診断 □その他() 画像データ □CT □MRI □その他()		ビグアナイド系「メグルコ等」の内服 (有・無) 透析シャント (右・左)
当院の受診歴 (有・不詳・無)		ADL・移動 (独歩・車椅子・リクライニング車椅子・ストレッチャー)

★患者さんの診察準備及びカルテ作成に必要なため、太線の枠内は全てご記入をお願いします。

開放病床登録医の方へ・・・紹介患者さんが入院の場合、開放病床への入院を(希望する・希望しない)

* 開放病床への入院を希望される場合は、この用紙を「開放病床利用届出書」に代用させていただきます。

☐ 広島県医師会の「HMネット」に参加しており、当院の「情報開示カード発行」を希望する。

☐ 広島県医師会の「HMカード」を既に持っており、当院の情報開示ラベルの印刷のみを希望する。

地域から信頼される病院を目指します



外来待合



紹介・入院・相談受付・地域医療連携課



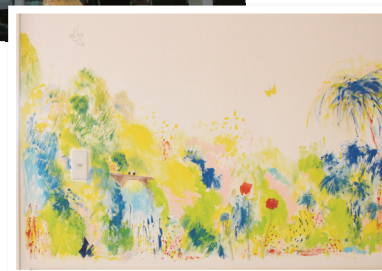
緩和ケア病棟 (本館 7 階)



手術室 (本館)



ロボット手術支援システム (Da Vinci)



西館 4 階小児科病棟 ホスピタルアート



福山市民病院 診療案内 2026 ～つなごう医療～

作成：福山市民病院
経営企画部 医事課
広報室

〒721-8511 広島県福山市蔵王町5丁目23-1
TEL.(084)941-5151 FAX.(084)941-5159
[E-mail] shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp
<https://www.fc-hosp.jp/>

アクセスマップ Access map



交通のアクセス

- 山陽自動車道福山東インターより車で2分
「東城・府中」方面へ進んでください
国道182号線に出たらすぐ右折レーンにお入りください。
「福山市街」方面からは右折が困難です
- JR福山駅より車で15分 バスで20分
福山駅前2・8番乗場→福山市民病院下車



拡大図